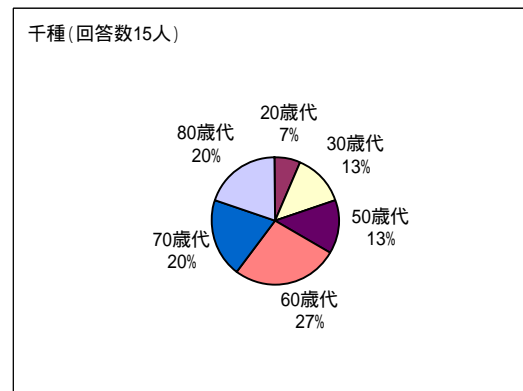
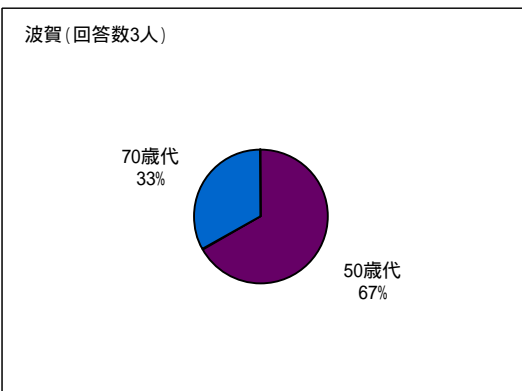
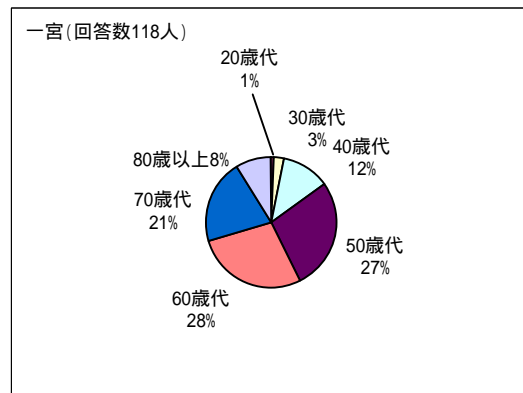
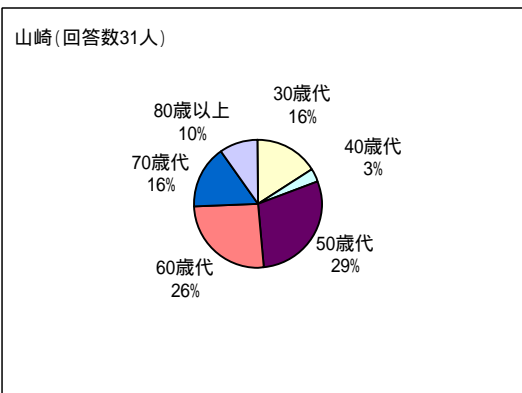
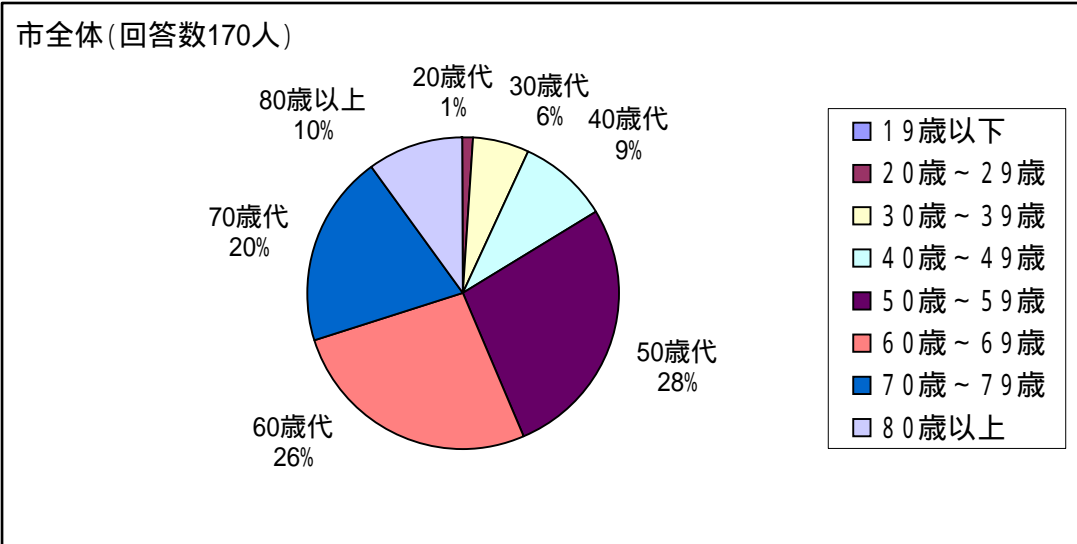


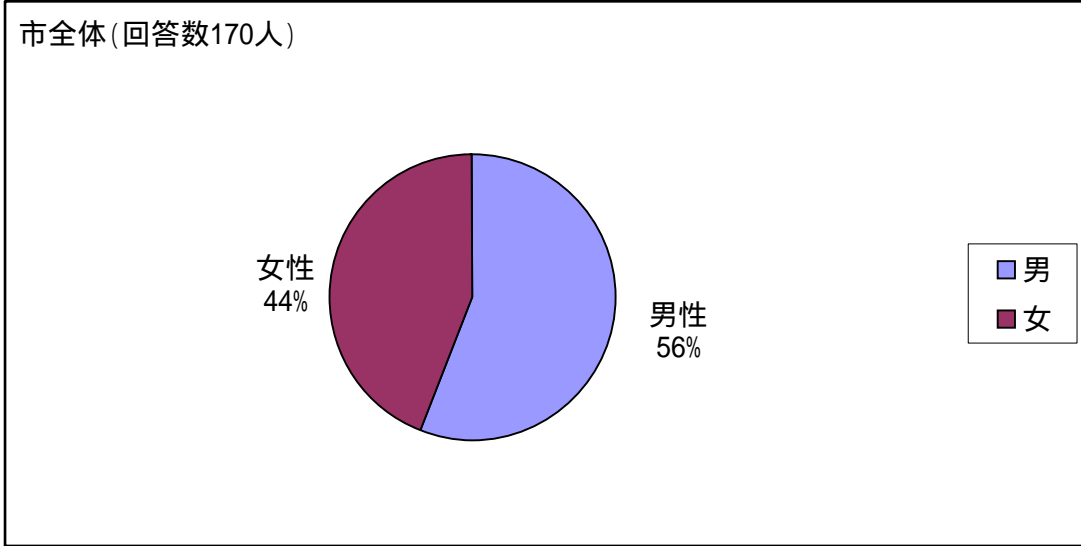
台風第9号災害による被災者アンケート結果

問1. あなたの年齢についてお伺いします。



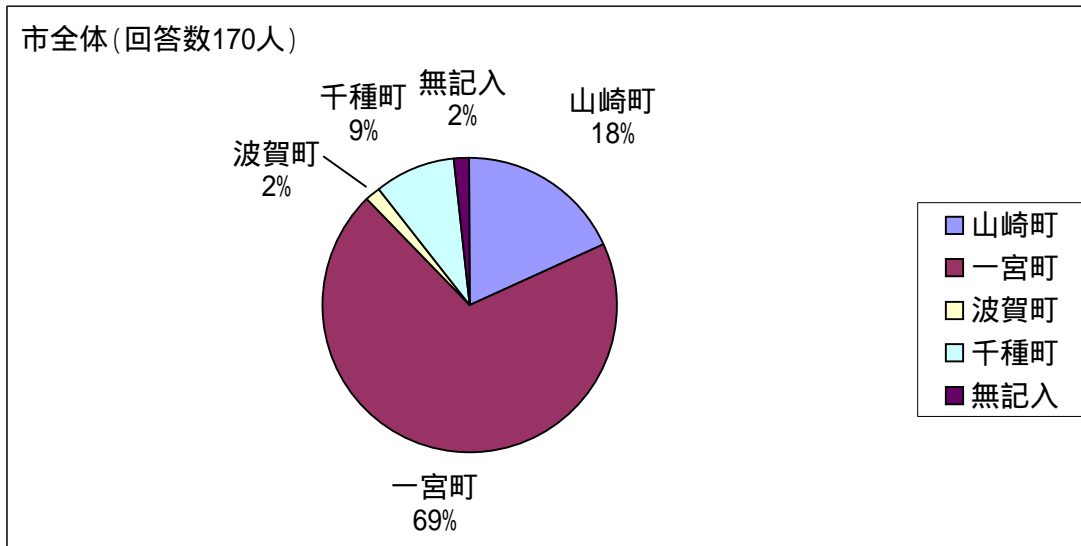
アンケート対象世帯220世帯のうち、約77%にあたる170世帯からアンケートの回答を得た。地域別に見ると山崎地区は約86%、一宮地区は約75%、波賀地区は50%、千種地区は75%の回答率となった。回答者の年齢は、50歳～79歳の回答者が全体の3/4を占める結果となった。

問2. あなたの性別についてお伺いします。

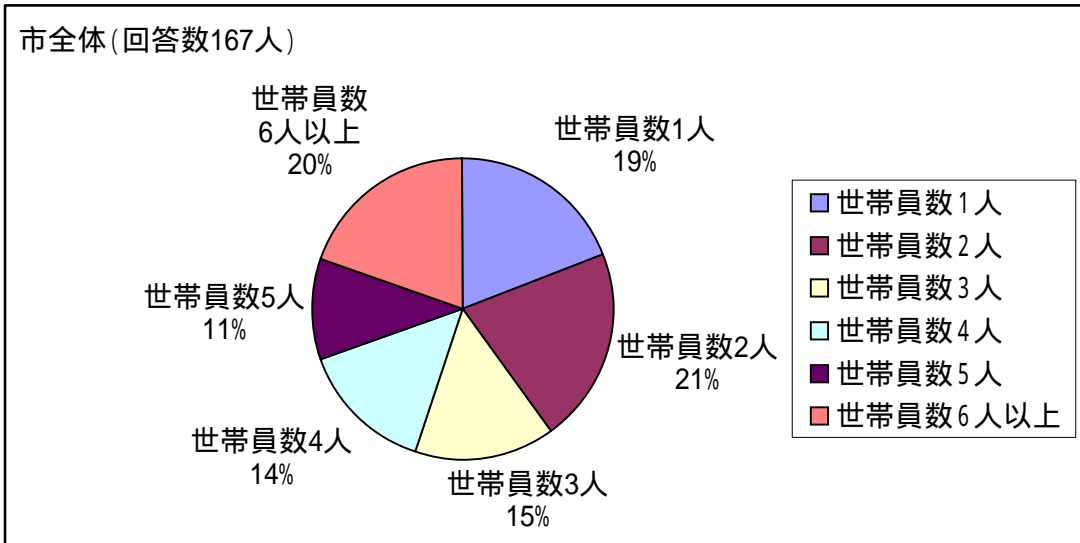


今回のアンケート調査における回答者の性別については、ほぼ男女の比率が同率となった。

問3. あなたが現在お住まいの場所についてお伺いします。



問4. あなたの世帯についてお伺いします。

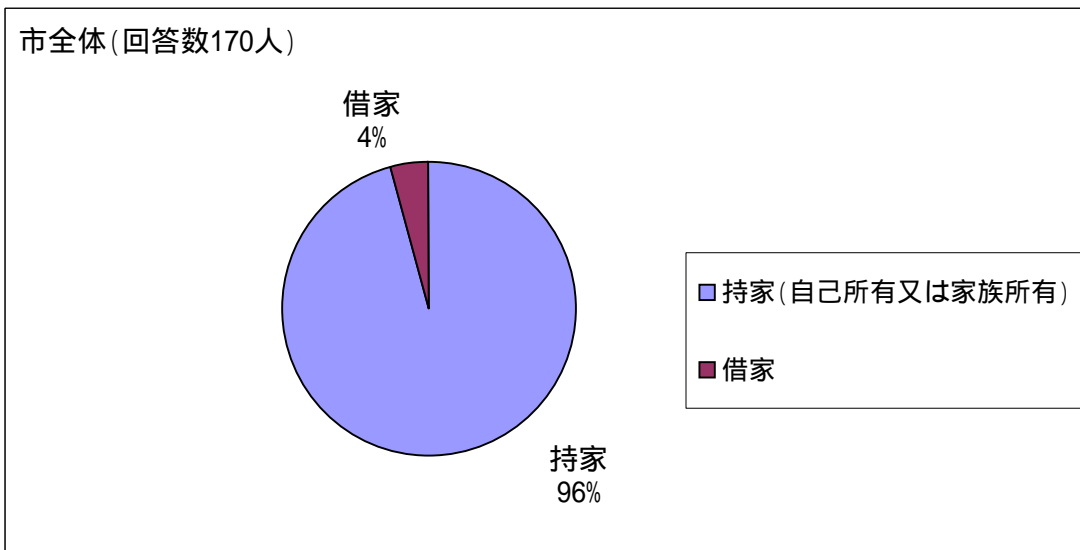


市全体における世帯員数の平均は3.3人となった。
災害時における避難に際して、約1/5の世帯が家族内で介助等が期待できない単身世帯であるとの結果となった。

各町別の平均世帯員数は、次のとおりとなった。

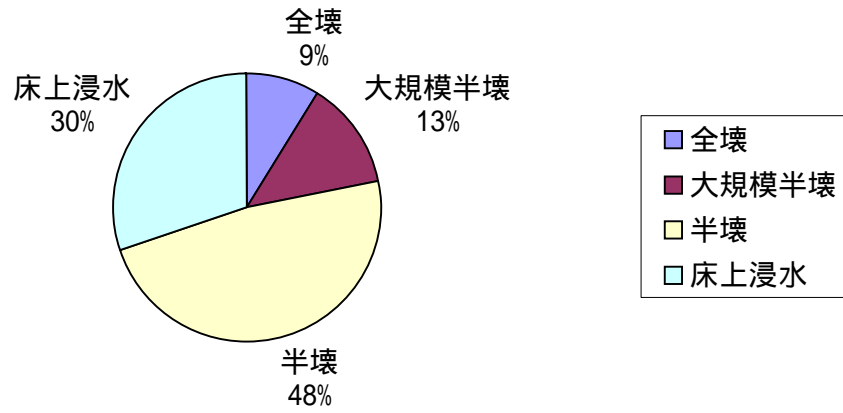
山崎町 平均3.1人 (回答者数31人)
一宮町 平均3.5人 (回答者数118人)
波賀町 平均3.7人 (回答者数3人)
千種町 平均3.4人 (回答者数15人)

問5. あなたの居住形態についてお伺いします。

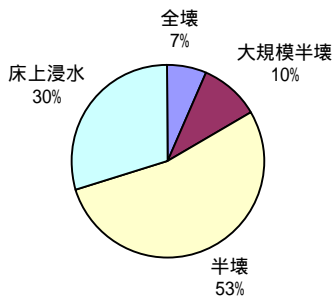


問6. 住居の被害状況についてお伺いします。

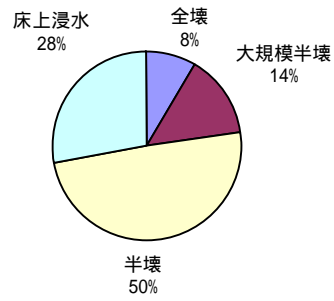
市全体(回答数167人)



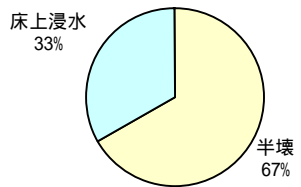
山崎(回答数30人)



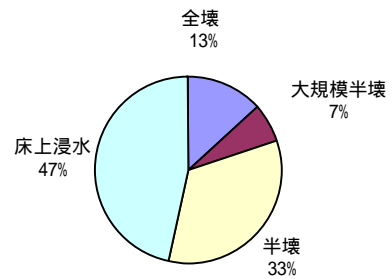
一宮(回答数118人)



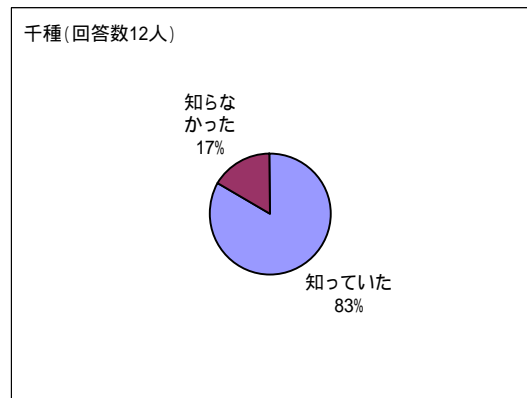
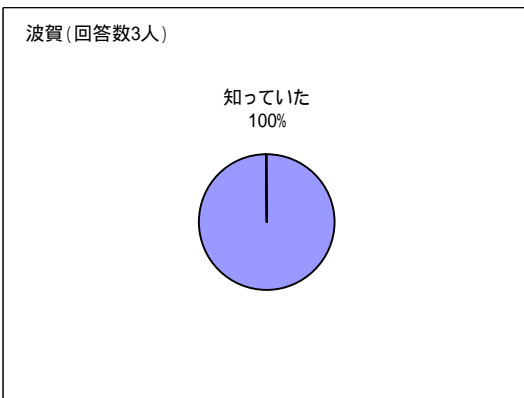
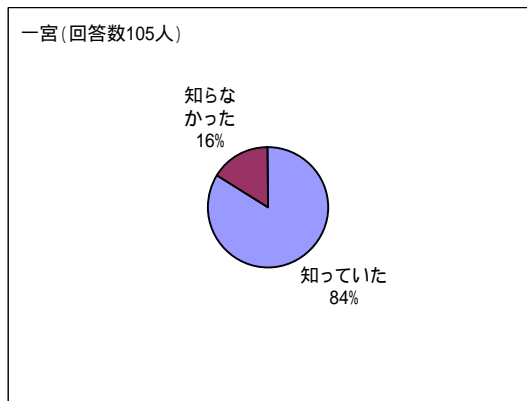
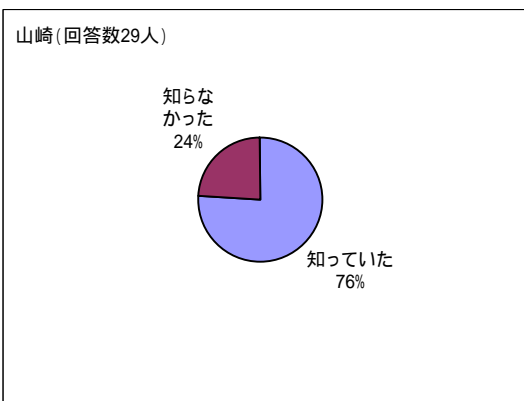
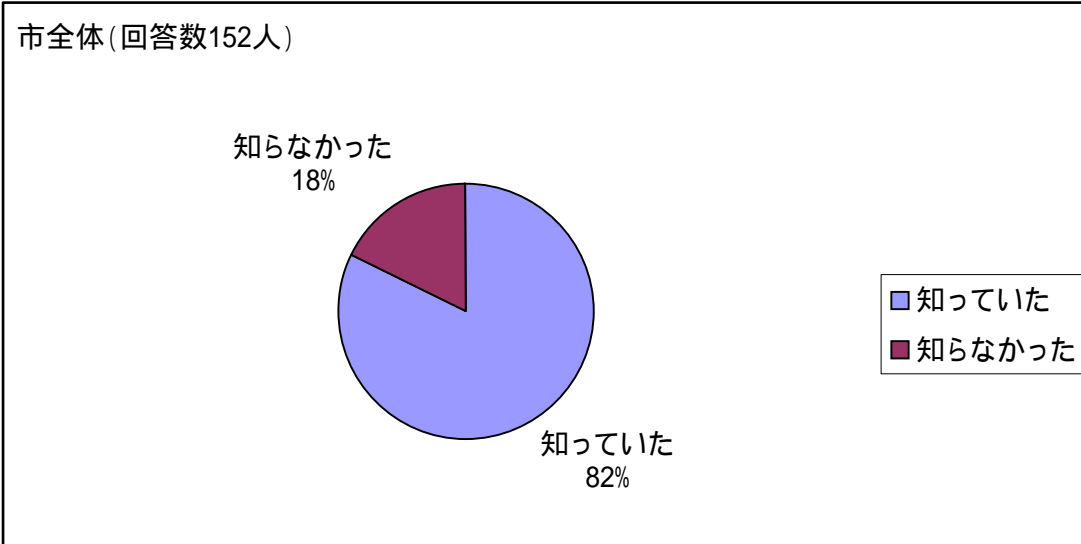
波賀(回答数3人)



千種(回答数15人)

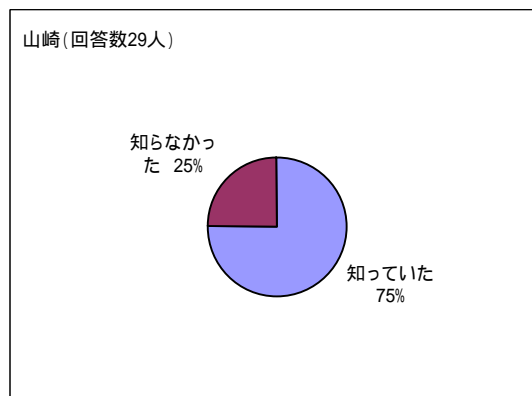
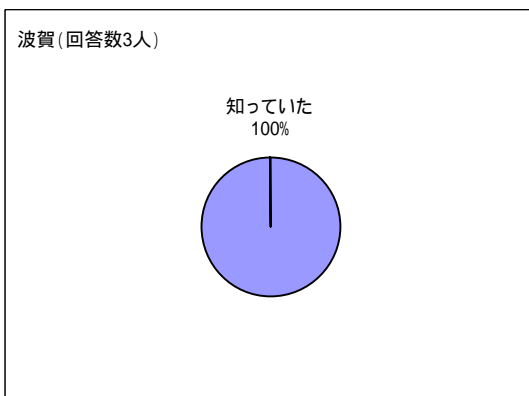
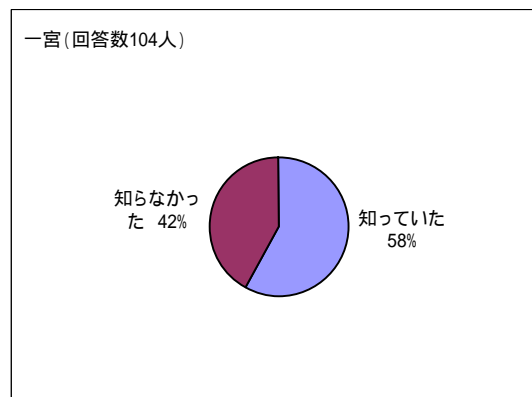
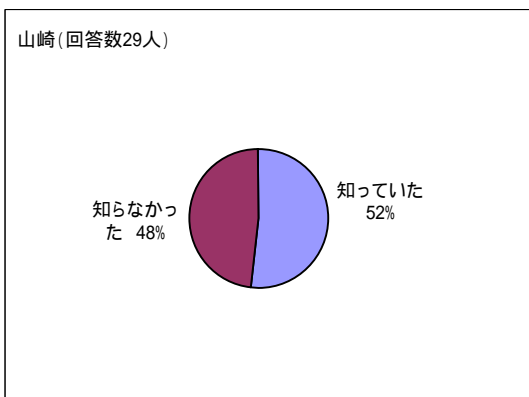
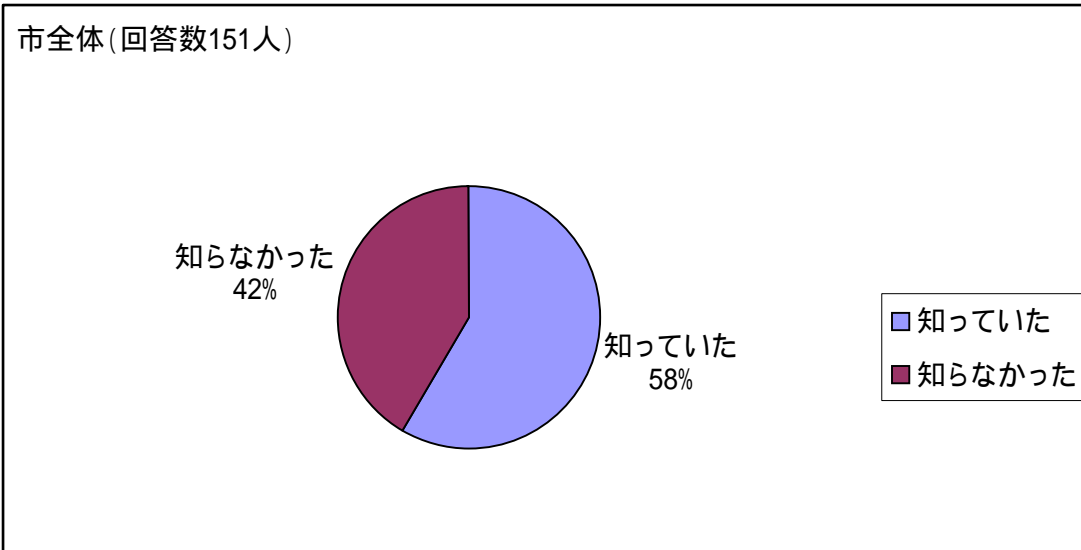


問7. あなたは、自治会の避難所が何処にあるのか知っていましたか。



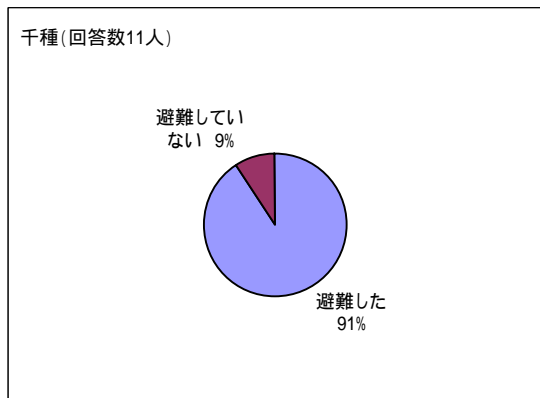
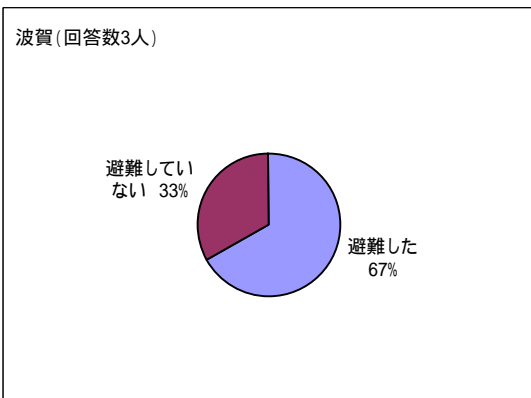
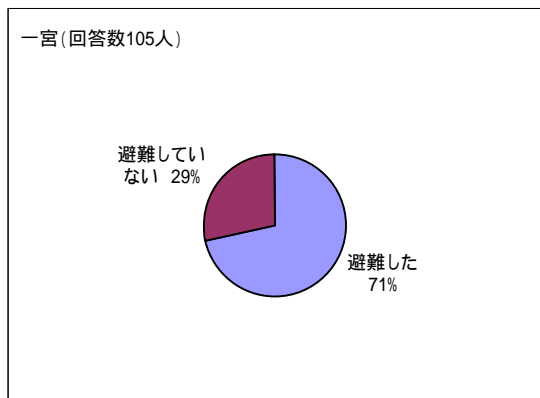
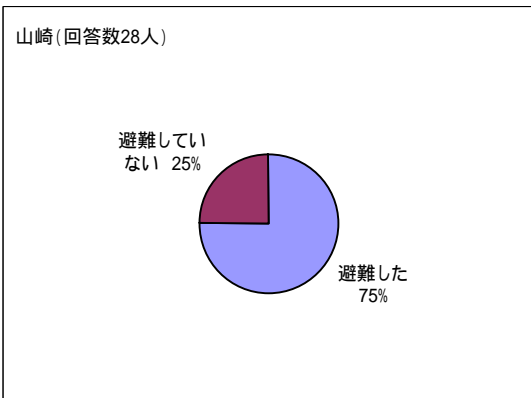
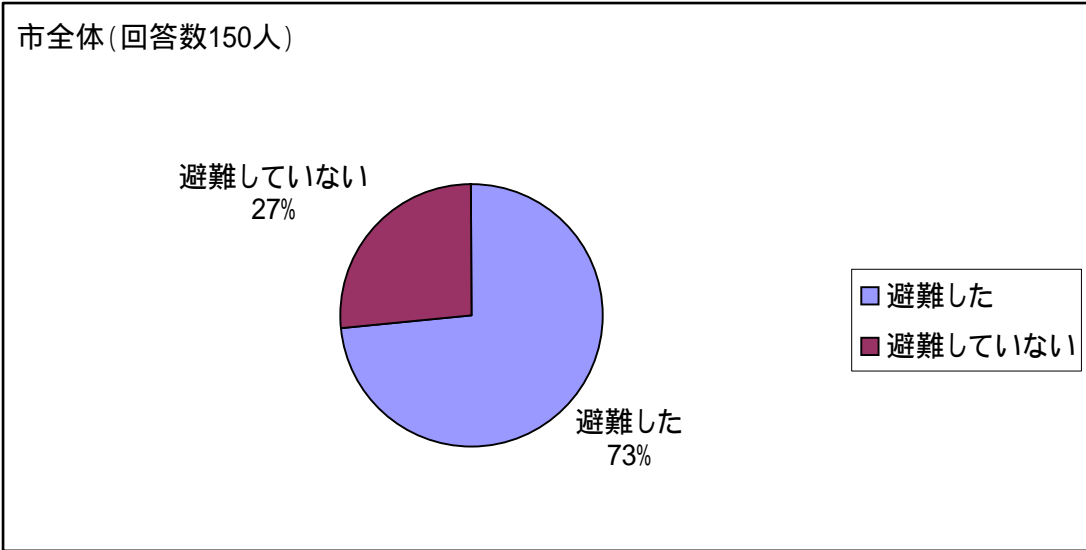
市全域及び各地域別においても、多くの方が近隣の避難所を知っておられるが、約5分の1の方が避難所を知っていない状況でもあり、全ての市民が避難所を認識するための取り組みが必要となっている。

問8. あなたは、市が指定する自治会の避難所が何処にあるのか知っていましたか。



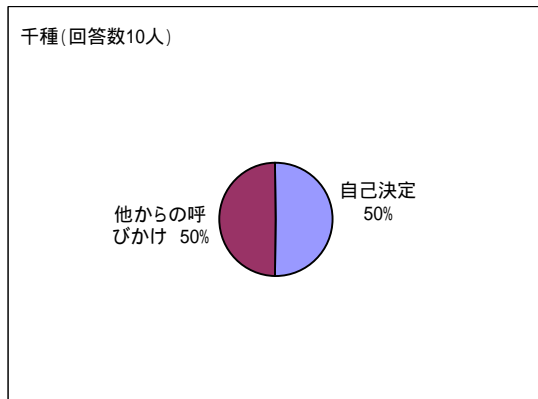
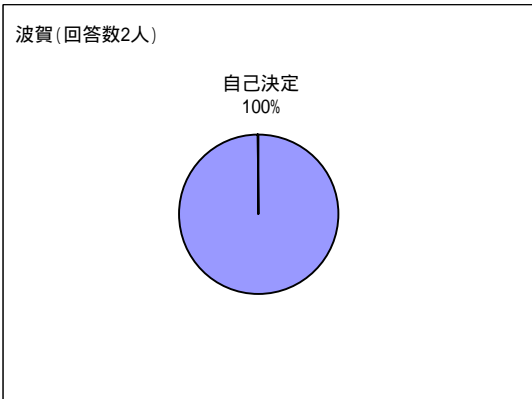
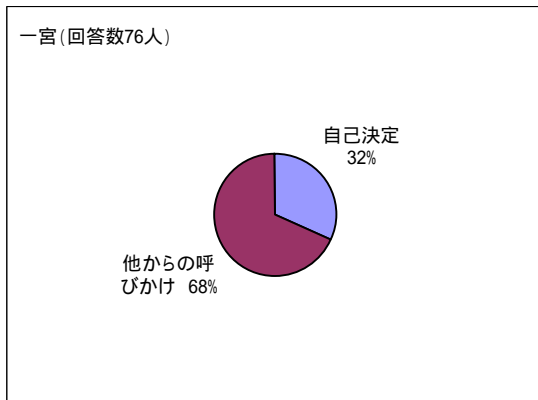
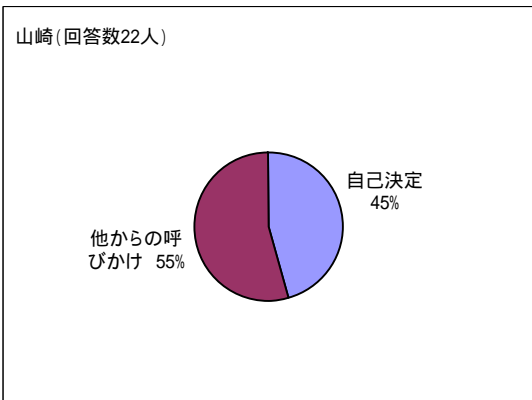
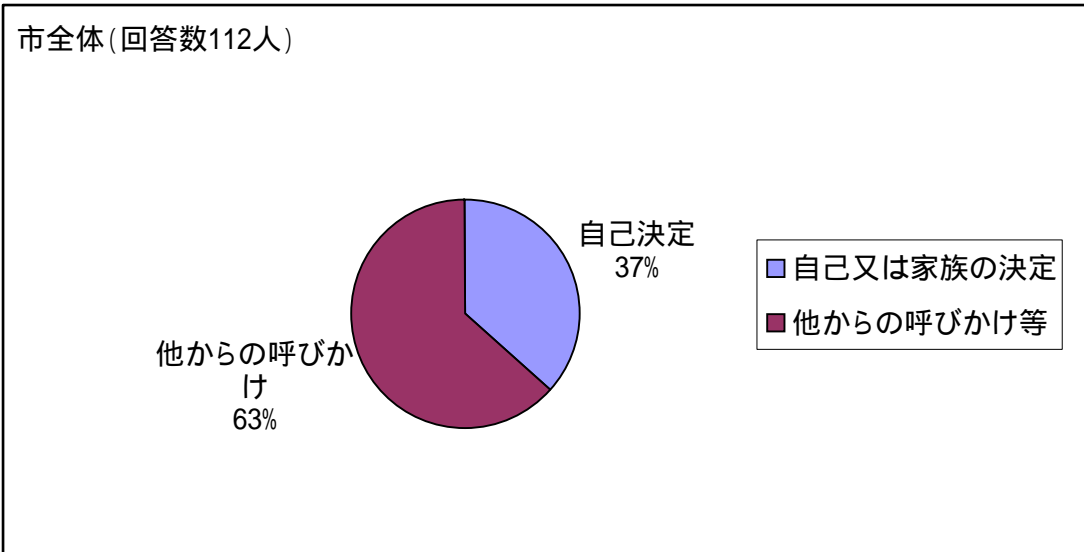
地域によって割合は異なるが、アンケート回答者の半数以上が広域避難所を認識しているとの回答があった。しかしながら、近隣の避難所の認識度と比較して広域避難所の認識度は低く、全ての市民が広域避難所を認識するための取り組みが必要となっている。

問9 . あなた又はあなたのご家族は、この度の災害に際して避難されましたか。



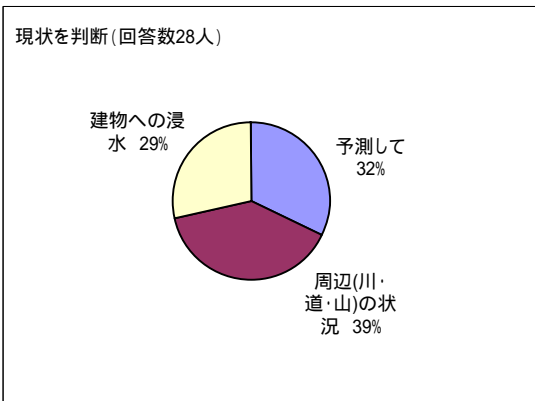
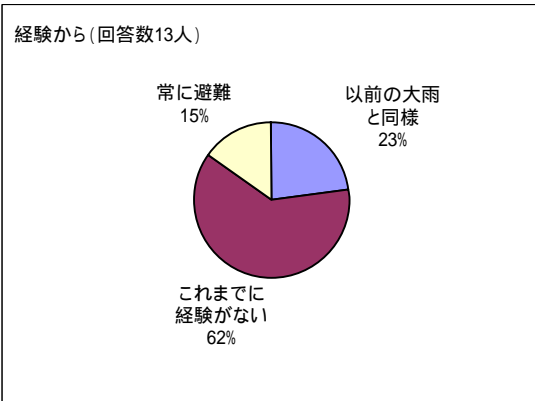
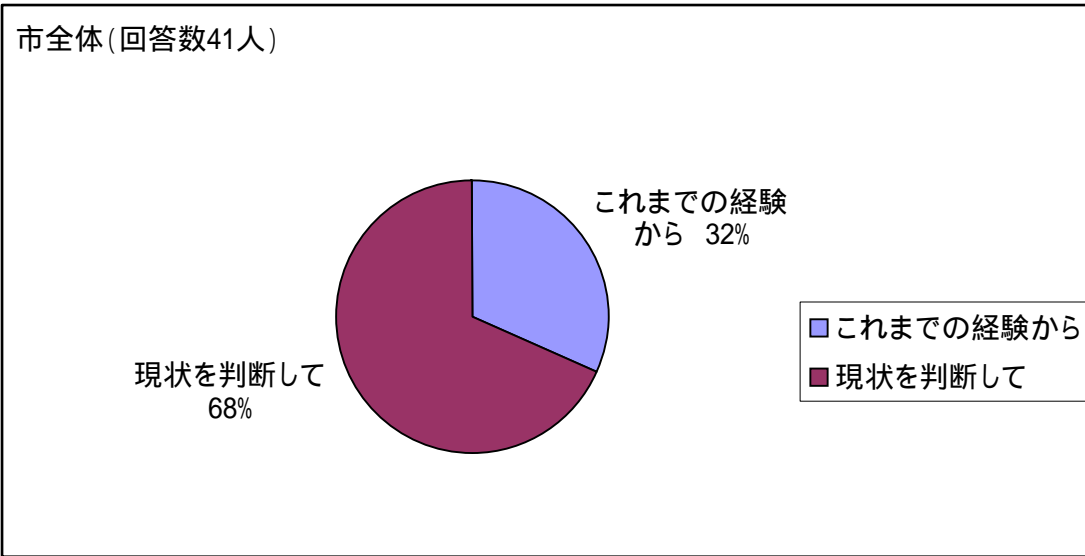
地域によって避難された世帯の割合は異なるが、全体として概ね4分の3に及ぶ方が避難をされた状況であり、この度の災害が非常に激しいものであったことを示した結果となった。

問10. 避難をされた方について、避難決定に至った理由は何ですか。



地域によって割合は異なるが、全体として避難を決定された理由として、他からの呼びかけと回答された方が約6割となった。
世帯員数区分による割合についても、それぞれ同程度の割合となっており、世帯員数に関わらず過半数の方が他からの呼びかけをきっかけとして避難を決定された結果となった。

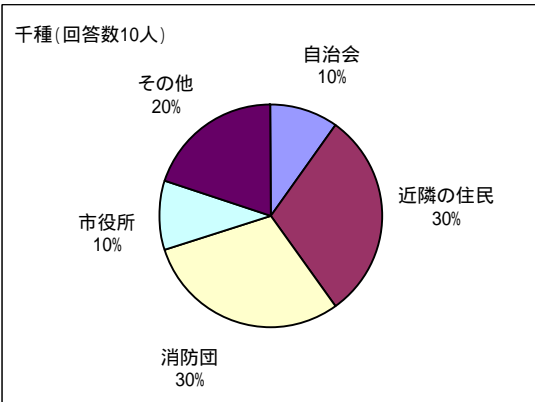
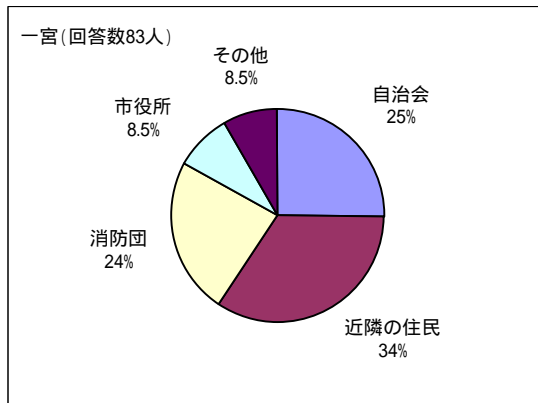
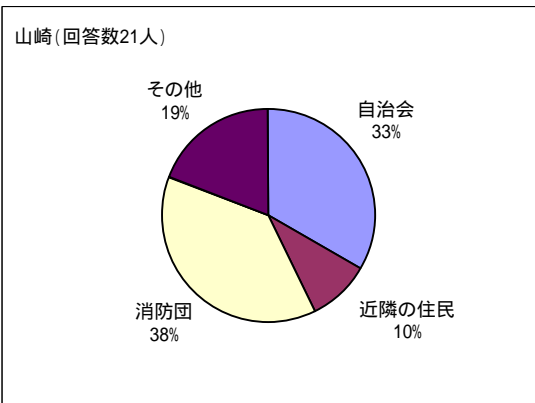
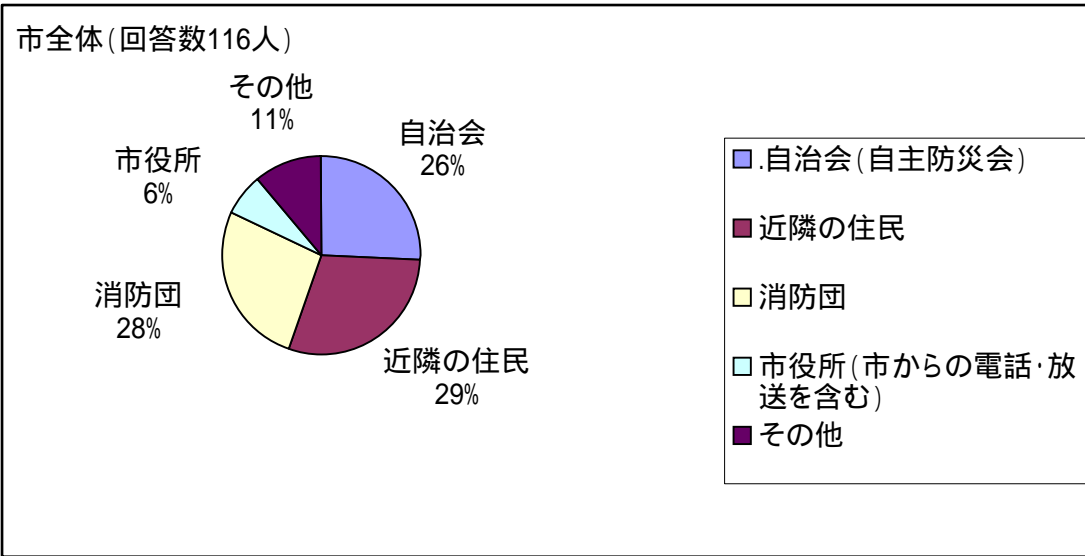
問11. 避難を「自己決定又は家族の決定」と回答された方について、決定の理由は何ですか。



【主な記述】

- ・ 20年前の大雨と同程度の水位があり、山が崩れる音と急な水位の上昇が見られた。(安積)
 - ・ 今回に限らず、いつも避難している。川の浚渫を以前から要望しているが残念だ。いつも怖い思いをしている。(須行名)
 - ・ 台風時は、常に避難の用意をしている。橋を下流側に架け替えてほしい。(福中)
 - ・ 家の裏の水の色がおかしいと思った。(福知)
 - ・ 一度や二度と違うので、身に染みている。今回は水量がすごかった。(岸田)
 - ・ 60年程前に大雨災害を受けた経験がある。(塩田)
 - ・ 山津波の再来を想像しながら避難準備をしていた。避難所に行ってから違う避難所を案内されたが、行っていたら佐用町のようになっていたと思う。(曲里)
 - ・ 一人でいたので早く避難した。(安積)
 - ・ 時間を追って見回りをしており、水が堤防を越えていた。(閏賀)
 - ・ 裏の川の様子をずっと見ていた。(福中)
 - ・ 道路の被害状況を見て決定した。(福知)
 - ・ 揖保川の水位が穴栗橋を超えるのを確認した。(中広瀬)
 - ・ 川の水位を10分おきに観測していた。(御名)
- これまでに、豪雨災害等を経験された方においても、記憶にないほどの豪雨・河川増水であったことが伺える。
家の周辺の状況や河川等の増水状況、またテレビ等の情報から自主的な避難を判断・決定をされた方が大半を占めた。

問12. 他からの呼びかけで避難された方について、あなたに呼びかけたのは誰(団体)ですか。

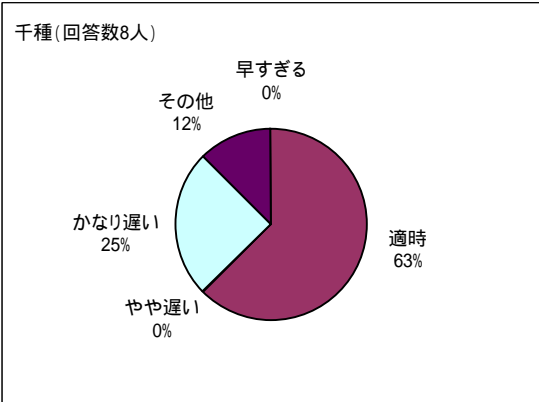
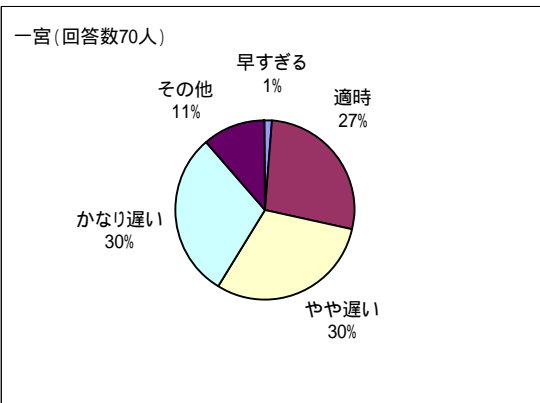
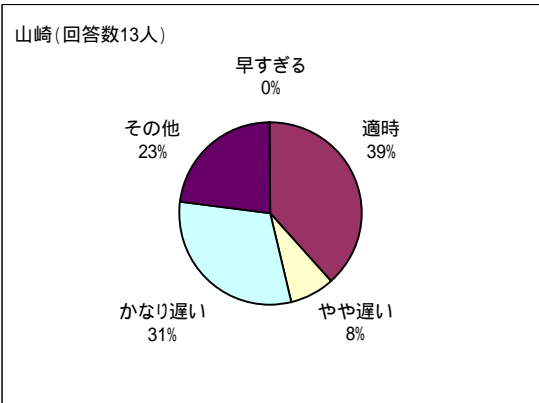
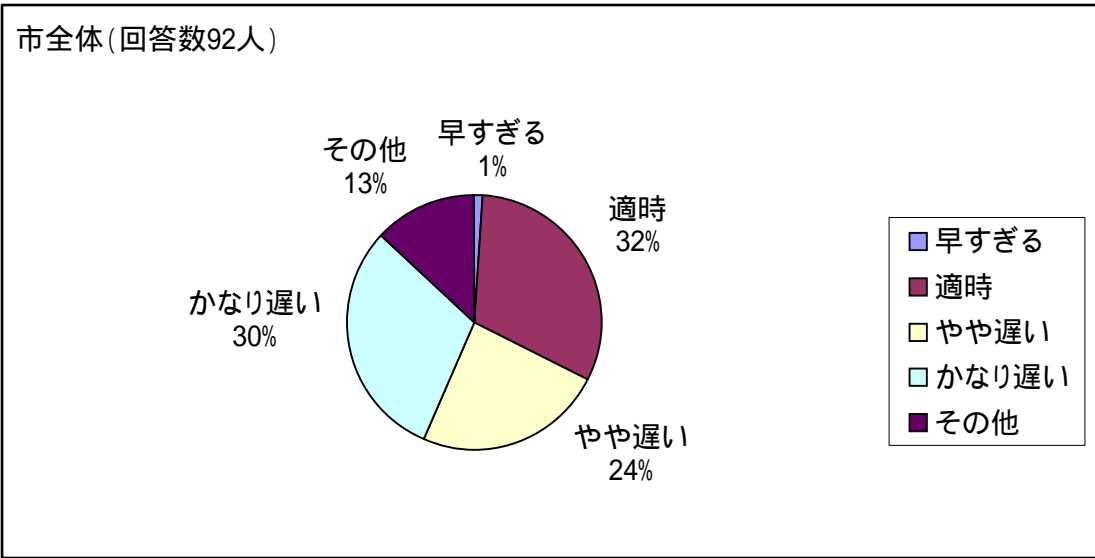


波賀町については、該当者なし。

「その他」として、家族、消防署、警察署からの呼びかけとする回答がありました。

地域によって割合は異なるものの、避難を決定するきっかけは、地域住民からの呼びかけが大多数であった。一方、音声告知放送の整備の有無は別として、市役所からの告知放送や連絡等により避難を決定された方は少数との結果となった。

問13. 他からの呼びかけで避難された方について、情報の伝達時間をどのように思われますか。

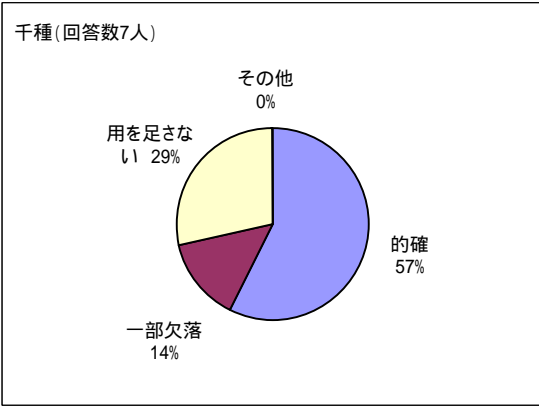
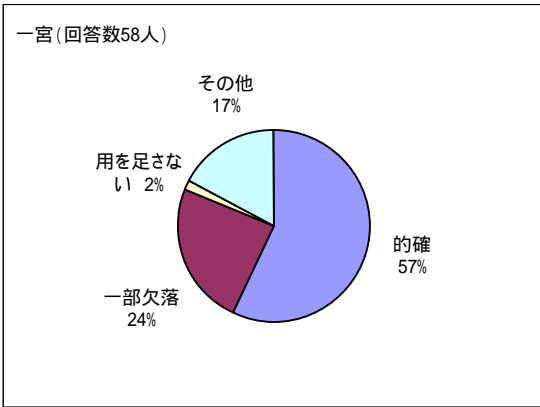
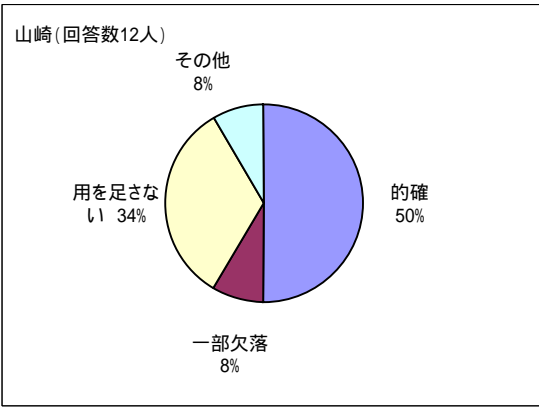
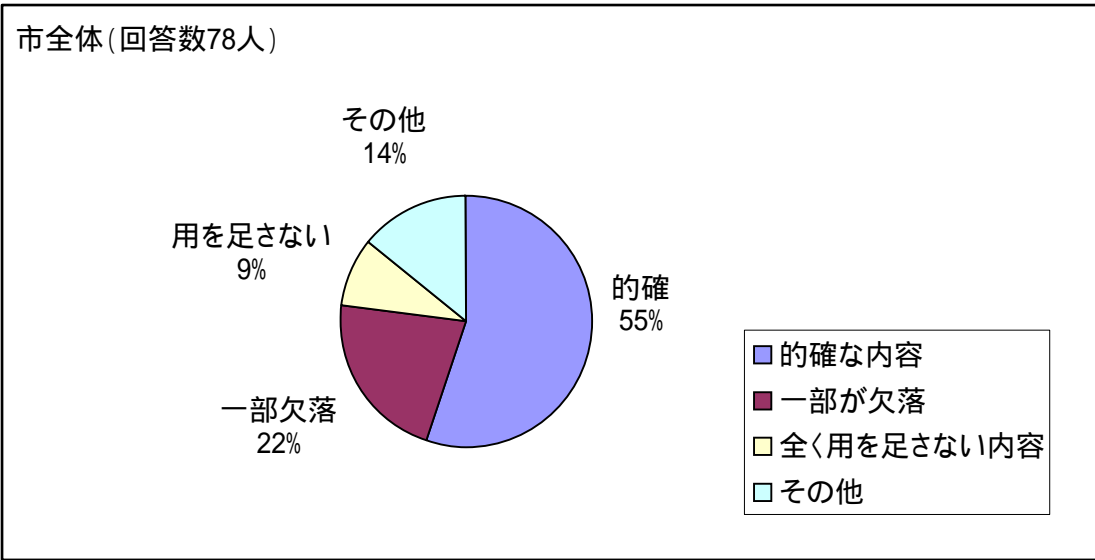


波賀町については、該当者なし。

「その他」として、気付かなかったとの回答が多くあった。また、「サイレンの活用」という意見もあった。

避難等の情報が伝わった時間については、地域による数値が大きく異なっており、今回の災害で最も早くに豪雨となった千種町地域では「適時」とする回答が最も多く、被害の最も大きかった一宮町地域では「遅い」とする回答が過半数となった。市全体としては、「遅い」とする回答が過半数となっており、この度の災害が急激な増水・洪水発生によるものであり、市も含め、地域においても対応が直ちに取れなかったことが読み取れる結果となった。

問14. 他からの呼びかけで避難された方について、情報の内容に関してどのように思われますか。

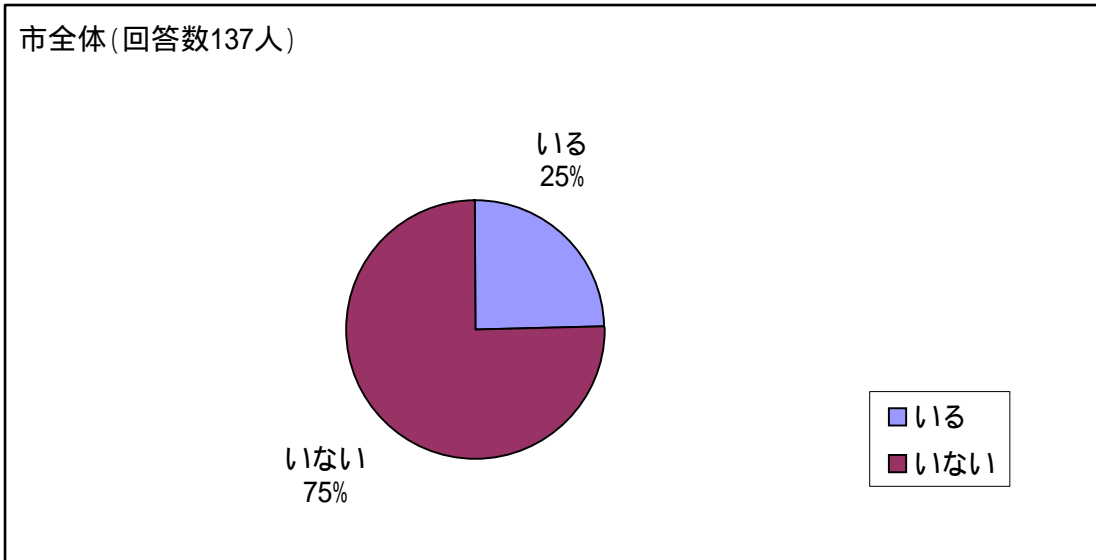


波賀町については、該当者なし。

「その他」として、「外出していた」、「就寝していた」等の意見があった。

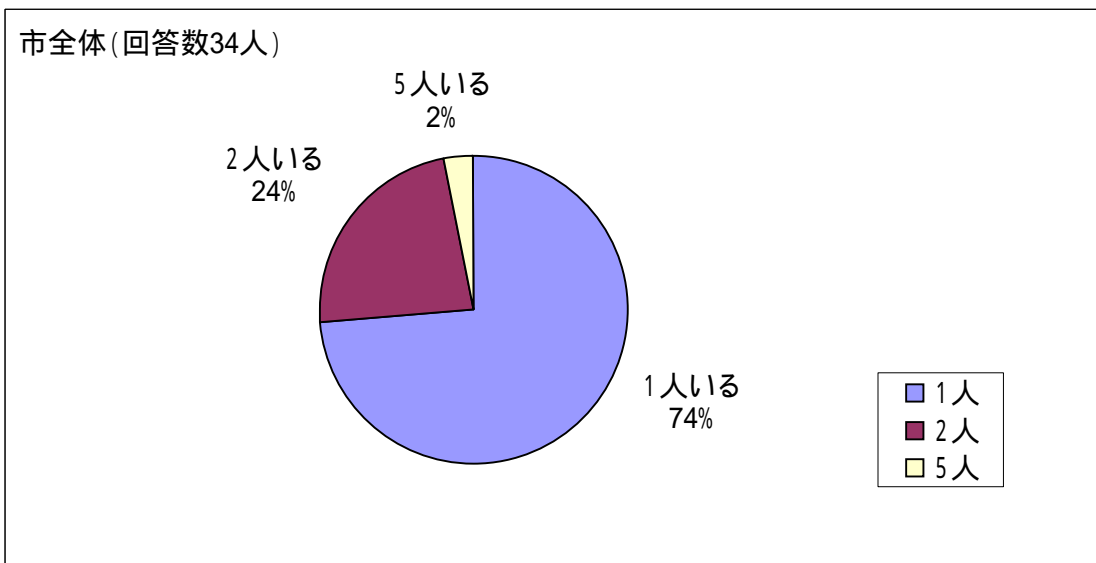
この度の急激な降雨、増水の状況において、市・地域等の対応が不十分な中で、情報内容が的確と回答された方が過半数となったことは、情報を提供する側と受ける側の双方において、その情報内容が合致していたものと伺える。
しかしながら、「一部欠落」、「用を足さない」とする回答が1/3程度となっており、曖昧な情報の授受による被害拡大・甚大化が懸念される中で、訓練等による伝達訓練の重要性が認識できる結果となった。

問15-1. 世帯の中に自力で避難できない方がおられますか。



市全体で、1/4の世帯で、自力で避難できない方がおられる結果となった。

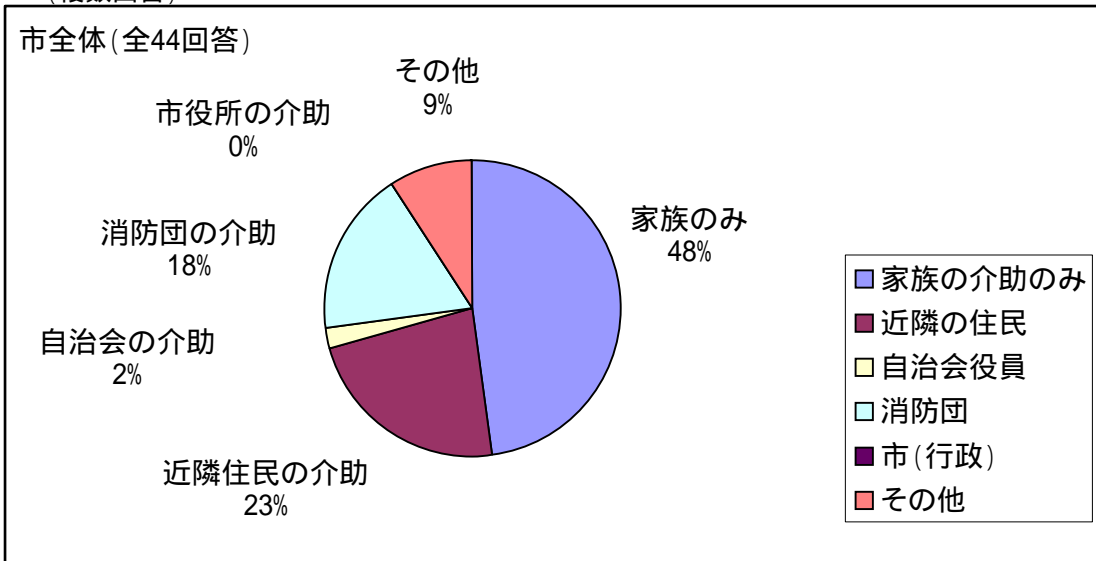
問15-2. 自力で避難できない方がおられる世帯で、その人数は世帯の中に何人おられますか。



世帯における自力で避難ができない方の人数で最も多かったのは「1人がいる世帯」となっており、今回の災害において人命に関わる被害が無かった要因の一つとして、この結果が考えられる。
回答について、「1人」・「2人」・「5人」のみの回答がありました。

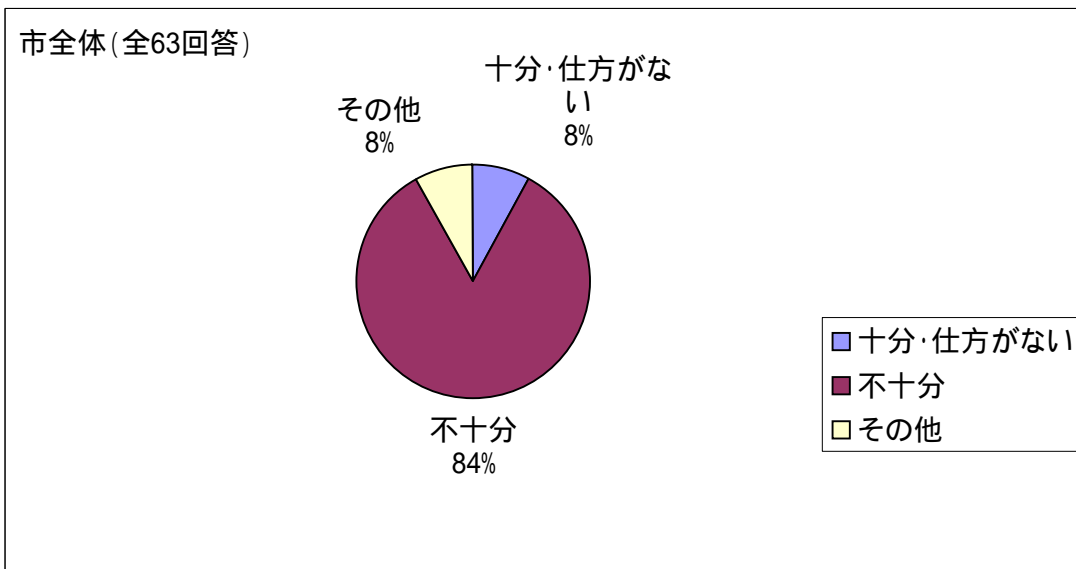
問15-3. 自力で避難できない方がおられる世帯で、どのような方法で避難されましたか。

(複数回答)



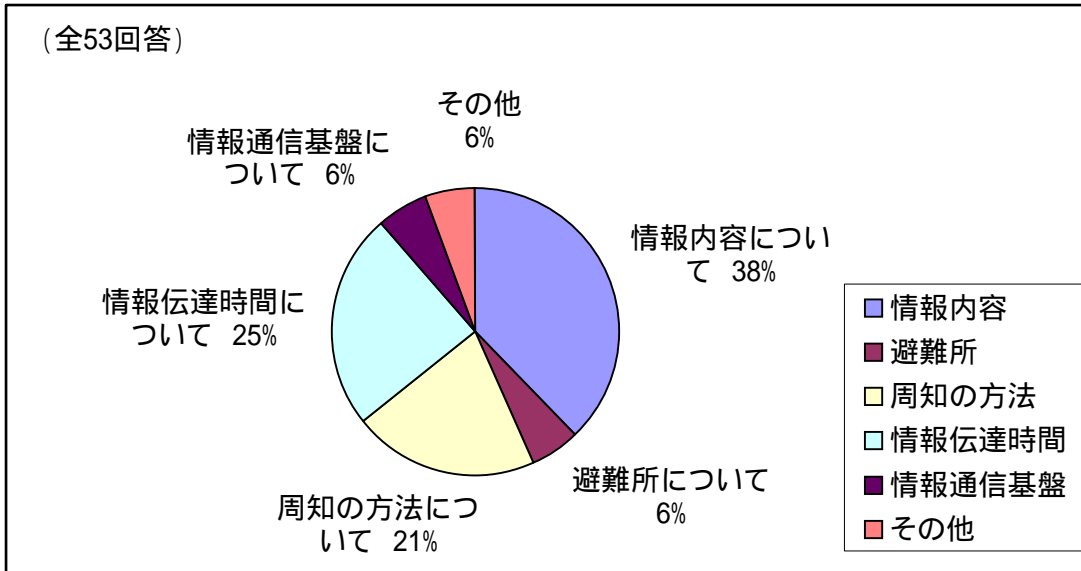
家族以外での自力避難困難者の介助については、近隣住民や消防団などの介助を受けられた家族が約4割となっており、災害時等における地域コミュニティの大切さと消防団・自治会(自主防災組織)の活動の重要性が理解できる結果となった。
市役所による介助が無かった(できなかった)のは、災害発生直後においてはやむを得ない状況と思われる。

問16. 災害時における避難等の情報の伝達時間・情報の内容について、思われたことは。



避難をされた方の大多数が、今回の災害を経験する中で何らかの不満・改善・提案を持たれている。

問16の回答の中で、「不十分」との回答をされた意見の内容について



【主な意見】

情報内容について

- ・ 自治会役員の状況把握が十分でなかった。
- ・ 市役所からの告知放送はわからなかったが、隣人からの電話があって良かった。
- ・ 通行できない(通行止め・通行不能)道路の情報、雨量情報、川の水位の情報がほしい。
- ・ 停電や電話の不通の状況を知らせてほしい。
- ・ 避難所の開設状況や安全な避難所の情報、被害地域の現状を伝えてほしい。
- ・ 避難情報の放送等は本当にあったのか？
- ・ 消防は警備に重点をおきすぎ。報告・連絡・相談といった連絡がなかった。
- ・ どこからも情報はなかった。
- ・ 行政情報を聞いても水害には関係ないとする世帯が多くあったと思う。
- ・ 災害状況を十分に把握しない中での避難の呼びかけは危険である。
- ・ 行くことができない避難所への避難を指示する情報が伝わった。
- ・ 誰一人声掛けしてくれる人が無く、不安であった。
- ・ 早い時期(危険になる前)からの、河川水位状況や避難準備の知らせがほしかった。
- ・ ページング放送について、緊急放送として最大音量での放送ができるシステムが必要。

避難所について

- ・ 伝えられた避難所に行ったが開設されておらず、風雨の中で長時間待った。
- ・ 一つの避難所が使用できない場合、次の避難所をはっきりさせておかないといけない。
- ・ 避難所を3箇所変更した。もっと早い時点で安全な避難所を決定し、開所してほしい。

周知の方法について

- ・ サイレンを活用すべき。
- ・ 屋外に対する周知方法が必要である。
- ・ 停電や電話線の断線時にも情報が伝わるような2重・3重の情報伝達網が必要。
- ・ テレビ、宍粟チャンネル、インターネット、携帯電話も活用すること。
- ・ 高性能な防災無線の自治会配備と、自主防災組織と消防団との情報(指揮)伝達システムのスマートなあり方の再考を求める。
- ・ 最悪のケースを想定した対策が必要である。

情報伝達時間について

- ・ 避難の情報を早く伝えてほしかった。浸水してからでは物(自動車)も運び出せない。
- ・ 避難情報が伝わったときには、既に床下浸水まで達していた。
- ・ 人命には替えられないので、無駄になっても早めの避難勧告をしてほしい。

- ・ 引原ダムの放流に関する情報がなかった。自治会からの避難勧告時には水位が下がりかけていた。
- ・ 水量の多かった時間に避難していたらどうなっていたか分からない。避難経路の安全確認、避難誘導のあり方も重要である。
- ・ 情報伝達も何もなさ過ぎ。自治会館も開けず、災害後も知らん顔であった。

情報通信基盤について

- ・ 電話の不通が最も困ったことである。
- ・ 携帯電話が通じることが、現在では最重要で、安心の元である。

情報内容については、避難に際しての情報(道路情報、河川情報、雨量情報)の周知・伝達を求める意見が多くあった。

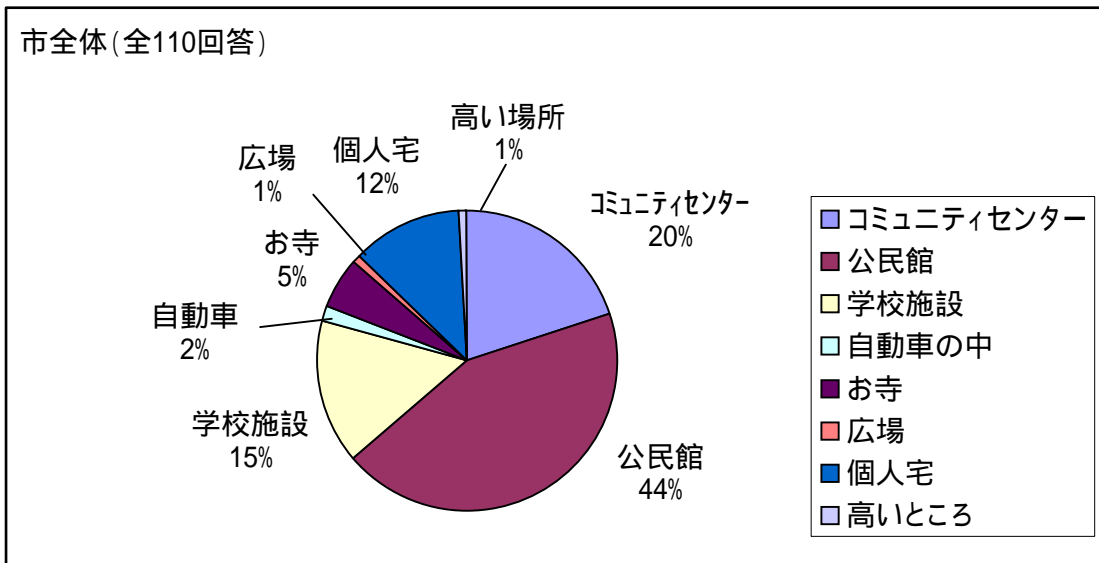
避難所については、安全な避難所の早期開設が必要との意見が多くあった。

周知の方法として、「サイレンの活用」との意見が多くあった。

情報伝達時間については、遅いとする意見が殆どであった。

情報通信基盤に関しては、電話(携帯電話を含む)の通話確保に対する意見と、情報伝達断絶を回避するための複数手段の確保を求める意見が多かった。

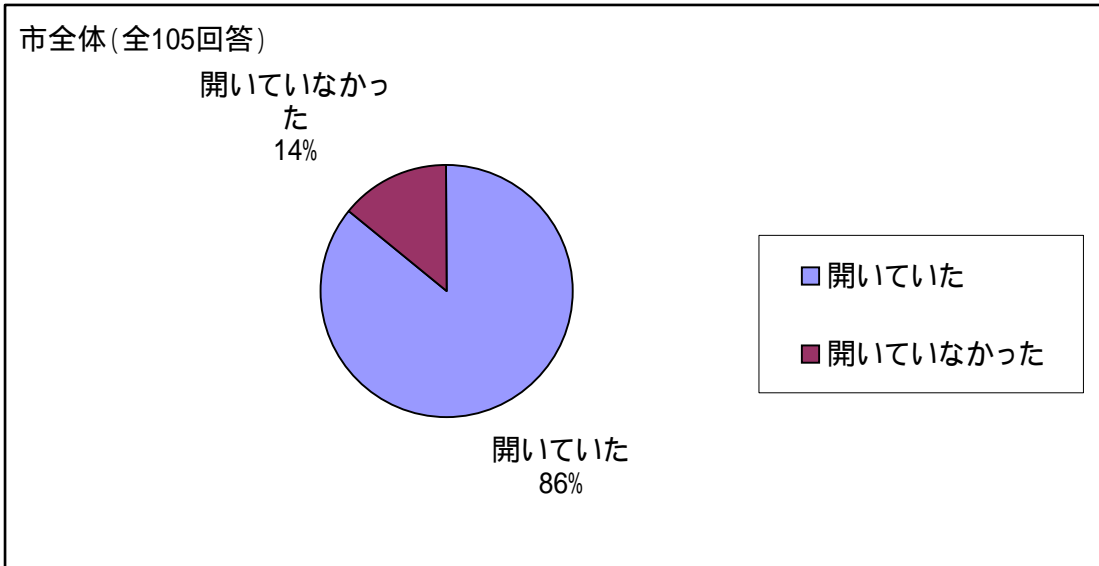
問17. 避難された方に、避難をされた場所は何処ですか。



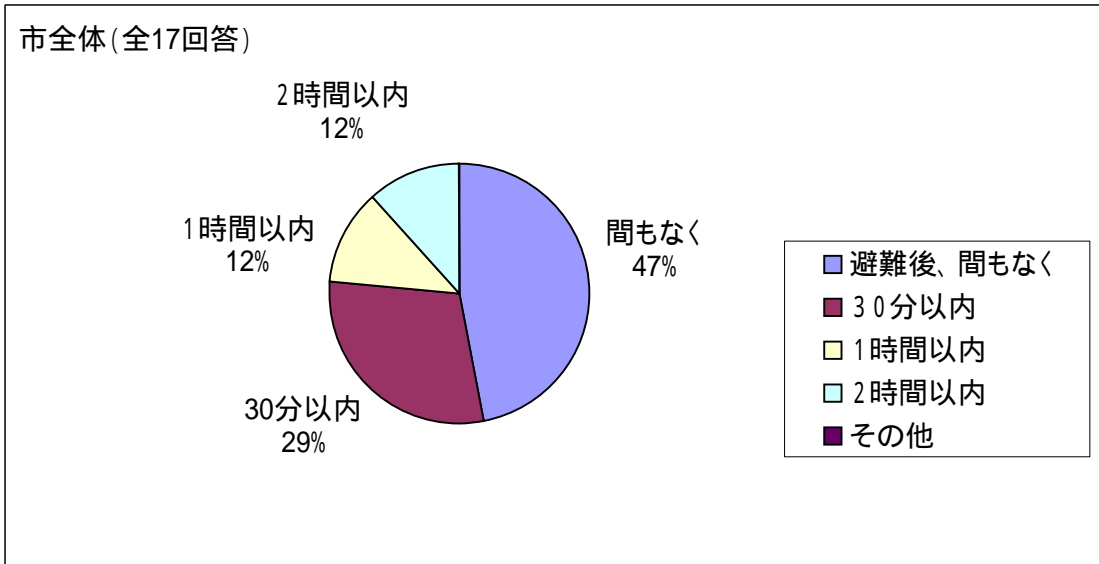
避難先として、約8割の方が公共施設に避難された結果となった。

また、指定の避難所へ避難できなかった方について、近隣の個人宅へ避難された方が1割に達していたことも分かる結果となった。

問18. 避難された方に、避難したときに避難所は開設(開いて)していましたか。



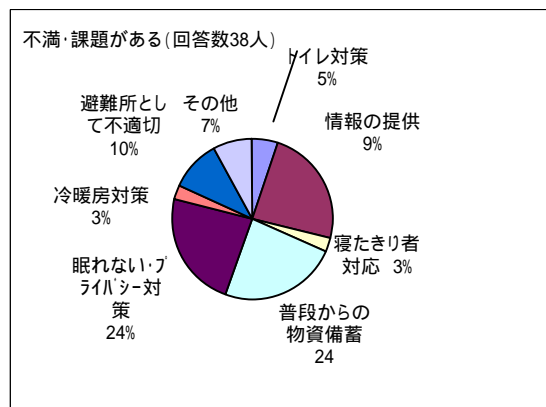
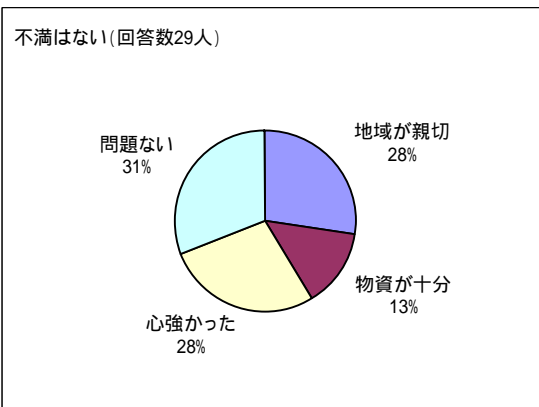
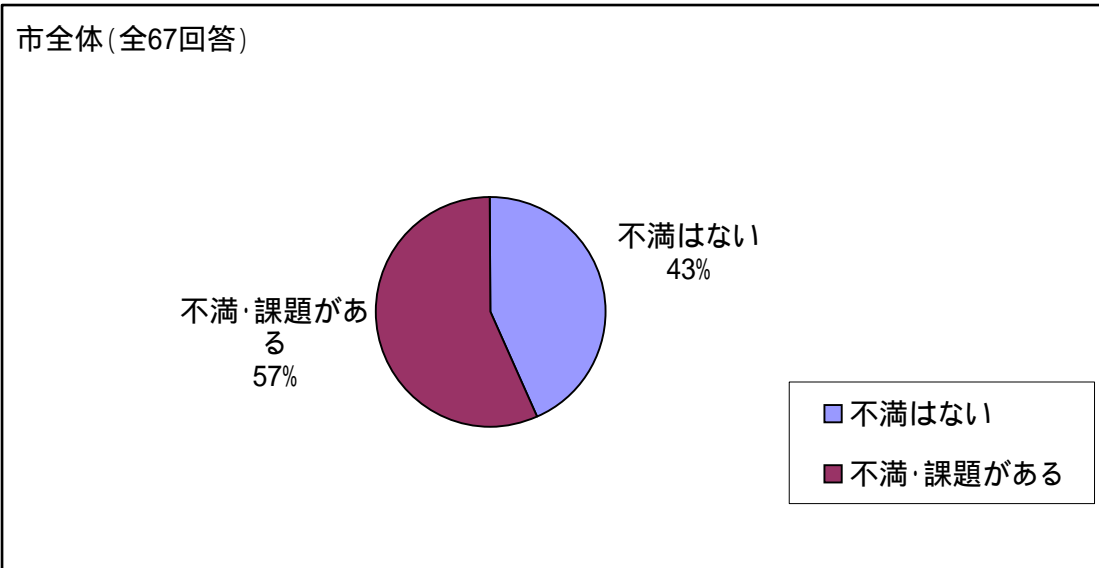
問19. 避難したときに「避難所が開設(開いて)していない」との回答の方について、あなたが到着後、どれくらいの時間で避難所は開設しましたか。



避難所の開設状況について、半数以上の方が、避難所の開設が速やかでなかったとの回答となった。

避難所の開設が速やかでなかったと回答された地域は、山崎町と一宮町であった。

問20. 避難所での生活について思われたことはありますか。



【「不満はない」の主な意見】

- ・ 避難所の自治会の方が親切で、毛布や炊き出しなど、とても嬉しかった。
- ・ 消防団や自治会役員の親切な誘導の元、安心して過ごせた。
- ・ 早くに毛布や飲食物が届いて良かった。
- ・ 窮屈ではあったが、みんなで協力し合い毎日を過ごした。
- ・ 近隣の方が一緒にいてほっとした。
- ・ たくさんの人と一緒にいたので安心できた。
- ・ 避難所が家に近いことで安心できた。
- ・ 常時から利用している施設なので安心できた。
- ・ 少人数だったので安心して暮らせた。

【「不満・課題がある」の主な意見】

トイレ対策

- ・ トイレが少ないと思った。洋式トイレでないと小さな子どもは困った。
- ・ 水道が断水していたために、トイレの水くみが大変であった。

情報の提供

- ・ 最新の情報(家の周辺の状況も含め)が分かるようにしてほしい。
- ・ 電話が設置されていなかった。
- ・ テレビが入らなかった。

寝たきり者対応

- ・寝たきりの方がとても気の毒であった。

普段からの物資備蓄

- ・衣服がずぶ濡れで足が冷たかった。
- ・避難所には普段から毛布や水などの備蓄が必要だ。
- ・座布団などの敷物、敷物としてのブルーシートが欲しかった。
- ・ざこ寝だったので眠れなかった。寝具がなかった。
- ・水とタオルが直ぐに欲しかった。

眠れない・プライバシー対策

- ・慣れない場所で、近所の方と同じフロアではプライバシーもなく不自由であった。
- ・狭くて眠れず、皆さんの話し声が気になる。
- ・生活するには安心したが、眠れなかった。
- ・避難所の運営を手伝わなければ悪いので、夜が眠れなかった。少し暗くてみんなで休む体制を作らないと次の日はとても応える。

冷暖房対策

- ・狭く、暑かった。

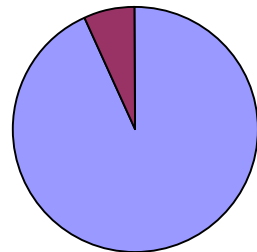
避難所として不適切

- ・直ぐに裏山があり、避難所への道も山からの水が轟々と流れていた。
- ・避難所にも水が流れ込んできて、次の避難所に移った。
- ・靴を脱ぐこともできなかった。トイレも水が入り使用できなかった。
- ・避難所に行ったこと自体が無駄だった。人数確認のためだけのものだった。

問21. この度の災害で避難所について思われたこと。日頃から思われていることは。

市全体(全61回答)

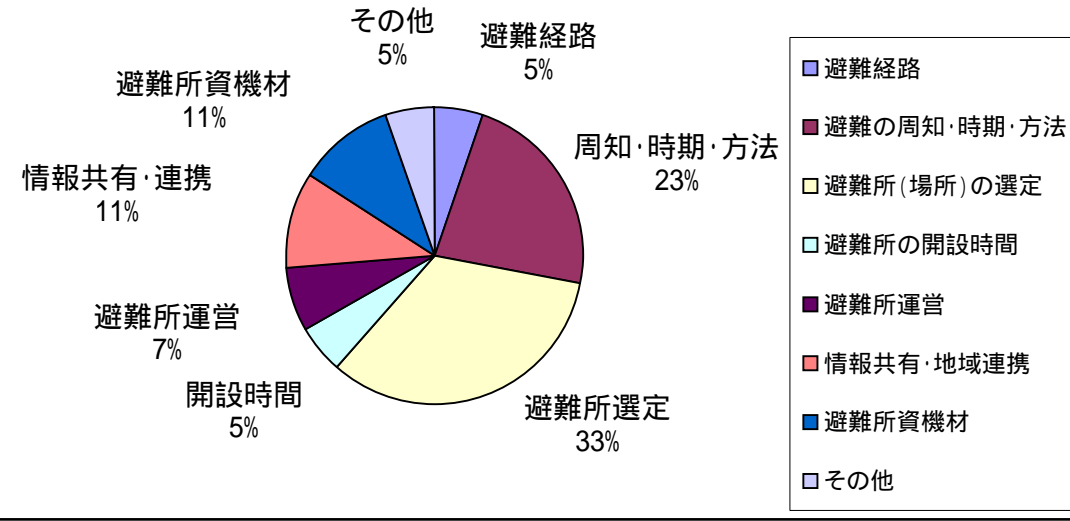
不満はない
7%



不満・改善がある
93%

■ 不満・改善点がある
■ 不満はない

不満・改善合点がある(全57回答)



【主な意見】

避難経路について

- ・ 避難所までの途中が明かりがなく、道と水路の境界が分からなかった。
- ・ 橋を渡って避難所に行くのは恐ろしい。橋を避けると大回りをしなければならない。
- ・ 深夜での福知グランドへの避難は暗すぎる。

避難の周知・時期・方法について

- ・ 結果として2箇所が避難所となったが、最初は自宅から遠い1箇所だけの連絡であった。
- ・ もっと早い段階で知らせしてほしい。対応が遅かったので、今後の参考にしてほしい。
- ・ いよいよになってからの避難は危険。避難所には早めに行くのが良い。
- ・ 災害の発生が想定された時点で早く対応してほしい。
- ・ 避難する時期を判断するのはなかなか難しい。避難中に次の災害に遭わぬとも限らない。
- ・ 4キロ離れた避難所まで行くとすれば、今回の避難勧告は遅すぎる。市役所職員の集合招集があった時に、地域にも注意報か避難指示を出してほしい。
- ・ 気が付くのが遅く避難所へ行けなかった。できる限り早く情報を流してほしい。
- ・ 避難場所について、自治会役員は状況に応じて的確な指示がほしい。
- ・ 告知放送端末が寝室から離れていたため、寝室に付いたら良いと思った。

避難所(場所)の選定について

- ・ 山崩れを考えたとき、思い当たる近くの避難所はどこも危険に思えた。
- ・ 避難所自体が本当に安全なのか疑問だ。
- ・ 避難所が浸水しそうだったので、考える必要がある。
- ・ 災害の状態をみての避難所の場所決定が必要。
- ・ 「下河野自治会公民館」は避難所が河川に近いので、水位が上がったときに大変心配だった。もっと高所に避難所を。
- ・ 水害、火災、地震とでは避難所の選定の考え方は変わってくる。
- ・ 「センターいちのみや」は裏山が危険である。よく調べて開設してほしい。
- ・ 大雨時に危険と思っていた自治会の避難所に行かれた方は、雨の中を2～3回にわたって避難所を変えられた。
- ・ 「一宮市民局の2階や第2庁舎」を避難所に指定できないか。「センターいちのみや」は高齢者では歩いていくのが大変だ。
- ・ 道が水で溢れている中、度々避難所を移った。しっかりした避難場所の指示をしてほしい。
- ・ 水害時に地域の橋が渡れないと避難所に行けない。隣接自治会等との調整も必要と感じた。
- ・ 「伊和高校の2階」が避難所となったが、高齢者や障がい者には大変だった。
- ・ 公民館は谷川の近くにあり、風倒木がダムを造っている状況で、いつ押し流されるかわからない。「一宮保健センター」も川の近くで山崩れの恐れがある。経路も道が川となっていた。

- ・ 閩賀自治会には安心できる避難所は無いと感じた。
- ・ 避難所はできる限り近くで安全な場所に開設してほしい。
- ・ 自治会館が開いていない場合、市役所(本庁)に避難できるようにしてほしい。
- ・ 避難所について、大規模災害時に多くの人が避難してくると狭いと感じた。

避難所の開設時間について

- ・ 「避難所はここだ」と決めていたが、いざという時、玄関が開いているかどうか不安だ。
- ・ 「都多小学校」が避難所になっているのに、開いていなかった。
- ・ 他の自治会では避難所が閉まっていたと聞いている。

避難所運営について

- ・ 避難所に誰か責任者がおられると良い。
- ・ 避難所に着いてから、人数確認などは無かった。
- ・ 避難所ではプライバシーも大切だと思う。
- ・ 災害時の身勝手な行動は良くない。忘れ物を取りに帰ったりして、みんなで心配した。このようなことは今後あってはいけないことだ。
- ・ 避難所に着いても、誰も誘導する人がいないのではどうしようもない。

情報共有・地域連携について

- ・ 情報の時間帯によっては危険性が高くなる。現場の情報は大切であることから、地元消防から地元への情報伝達。そして地元消防から市への報告という流れが良いのでは。
- ・ 避難以降、自分の家や周辺がどうなっているのか、情報が入ってきたのが遅かった。
- ・ 避難所での情報伝達が必要。
- ・ 合併するまでは台風の度に消防団が見回りに来たが、合併以後は無くなった。
- ・ 災害は他人事だと思っていたが、平常からの準備は大切だと思った。
- ・ 台風時や雨の続くときは、早めに避難所に行くこととします。

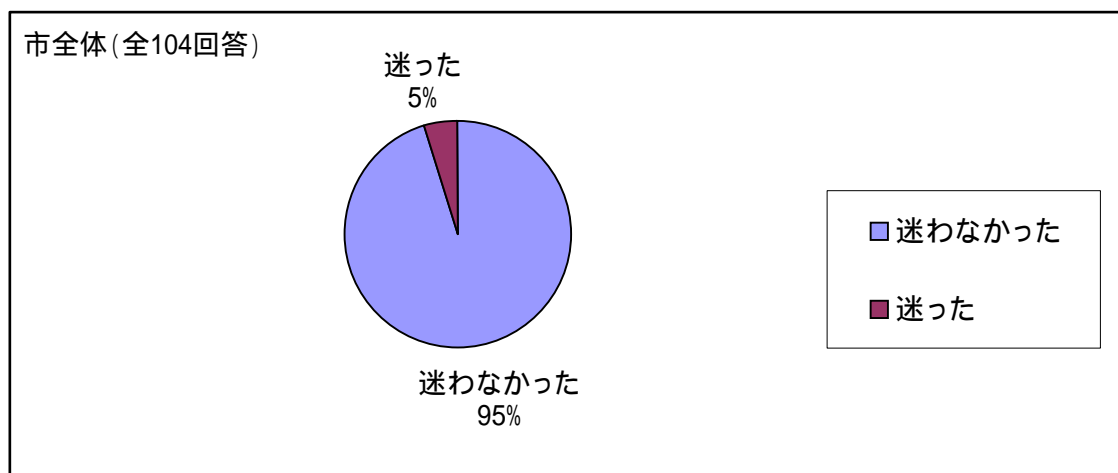
避難所資機材について

- ・ 毛布を配ってもらったが、数が少なく、寒かった。
- ・ 避難所に電話が無く、毛布類等の資材も無かった。
- ・ 避難所に行ったが、トイレトペーパーが無くなってしまった。
- ・ 寝具や飲料、食料等が不足していたので、市民局や各自治会にも多少の備品が必要だ。
- ・ 避難する際には、懐中電灯が必須である。

その他

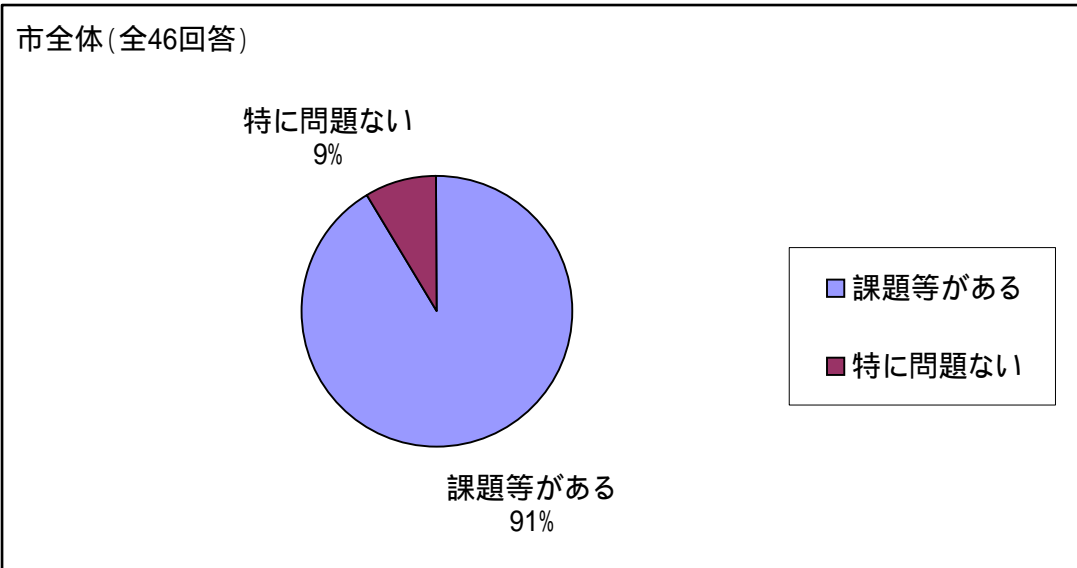
- ・ 橋が低く、橋の架け替えが必要だ。橋の土台(中間部)は邪魔だ。
- ・ 河川の堤防工事を途中で止めないでほしい。大雨になると心配だ。
- ・ 避難所へ避難をすることが最善ではない。

問22. 避難された方について、避難所まで迷わずに着くことができましたか。

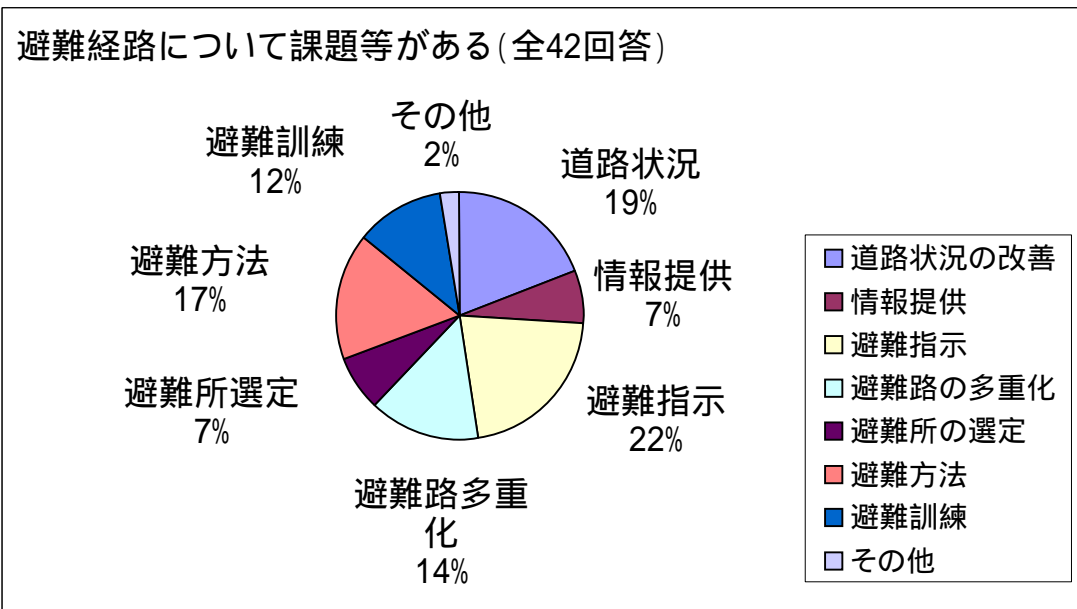


深夜での災害発生にも関わらず、全市的にも、また最も被害の大きかった一宮町地域においても避難所へ迷わずに行かれた方が大半であった。

問22. 避難経路について思われたこと。また、日頃から思われていることは。



避難経路について、多くの方が課題等があるとの回答となった。



【主な意見】

道路状況の改善について

- ・ 側溝もあり、暗いと避難所までの道も不安である。
- ・ 道が狭い。
- ・ 道路と溝の境界がわかりにくかったので、ガードレールや反射板がほしい。
- ・ 水路が氾濫して、歩いて避難するには困難で道が暗かった。
- ・ 避難所までの道程は危ないように思う。
- ・ 街灯が少ない。防犯灯などが役立つ。

情報提供について

- ・ どこが避難所になっているのか周知されなかった。「逃げてください」だけではわからない。

- ・ 道路が使えなくなった場合の状況判断は難しい。
- ・ 避難所までの道順がわからなかった。

避難指示について

- ・ 避難所が次々と変わったことに疑問を感じる。
- ・ どこが安全かわからない。
- ・ 避難所が自宅から近いが、30分遅れていたら道はわからなくなっていた。
- ・ 既に表も裏も川のように水が流れていたため、自宅の2階の方が安全かも知れない。
- ・ 避難所へ行ける状況ではなかった。
- ・ 国道が通行止めになってからの避難勧告だった。
- ・ 広域避難所までは遠すぎる。相当早めの指示をされたい。
- ・ 屋外でもわかるような避難指示を出してほしい。

避難路の多重化について

- ・ 2通り以上の避難経路がほしいと思った。
- ・ 山崩れのありそうなところを避け、橋を渡らない避難所経路。
- ・ 川を渡らなければならないので、どの橋が安全か、渡るべきか決めておく必要がある。
- ・ 避難時に土石流にあった。怖かった。
- ・ 「伊和高校」の運動場へはどのように行けば良いのか。

避難所の選定について

- ・ 避難所が危険な場所にある。
- ・ 「センター宮」は坂道で相当の水が流れていた。この場所は危ないと思う。
- ・ 近隣の安全な民家を最低限の避難所として指定しては。

避難方法について

- ・ 車での避難は危険なので、徒歩で避難した。
- ・ 車で避難したが、暗くて不安だった。
- ・ 1人の避難ではなく、複数人数での避難が望ましい。
- ・ 消防団が積極的に誘導・案内してほしい。
- ・ 1人暮らしで足が不自由なので、消防団の方に介助いただけたらと思う。

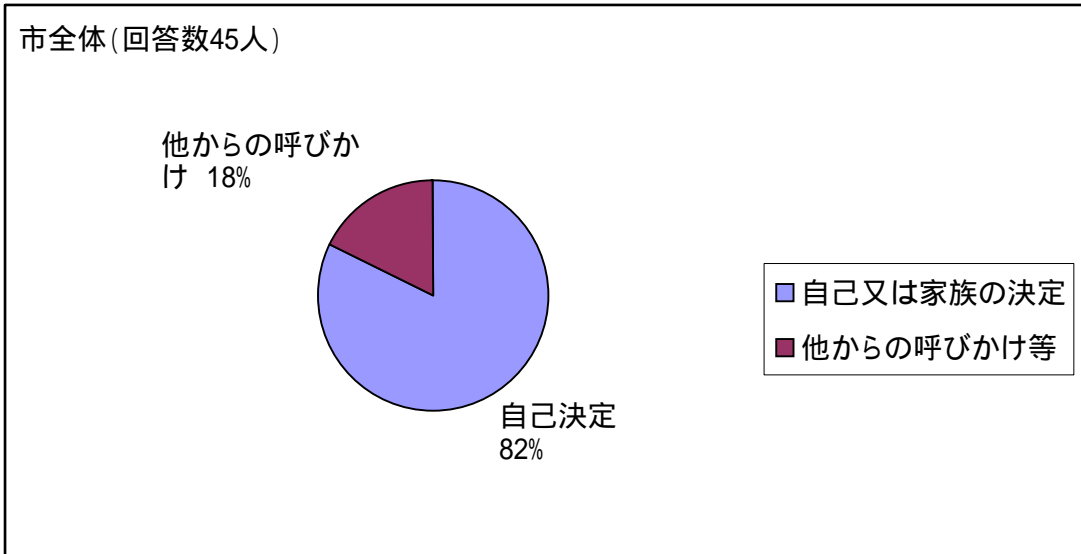
避難訓練について

- ・ 避難に車を使用する人が多く一部で混乱した。避難路確保の点からも日頃からの訓練の徹底が必要。
- ・ もしもの時を考えて、家族で常日頃から話し合っておくことが必要。
- ・ テレビ等の情報を常に確認して、避難に遅れないように自分たちが気をつけて、声を掛け合って避難しておくべき。
- ・ 水害のことなどを何も気にせずに、自治会の方から声が掛かって初めて避難を始めたが、避難所には行けなかった。
- ・ 日頃から自治会や隣保集会などで避難経路や避難場所について、常に学習すべきだ。

その他

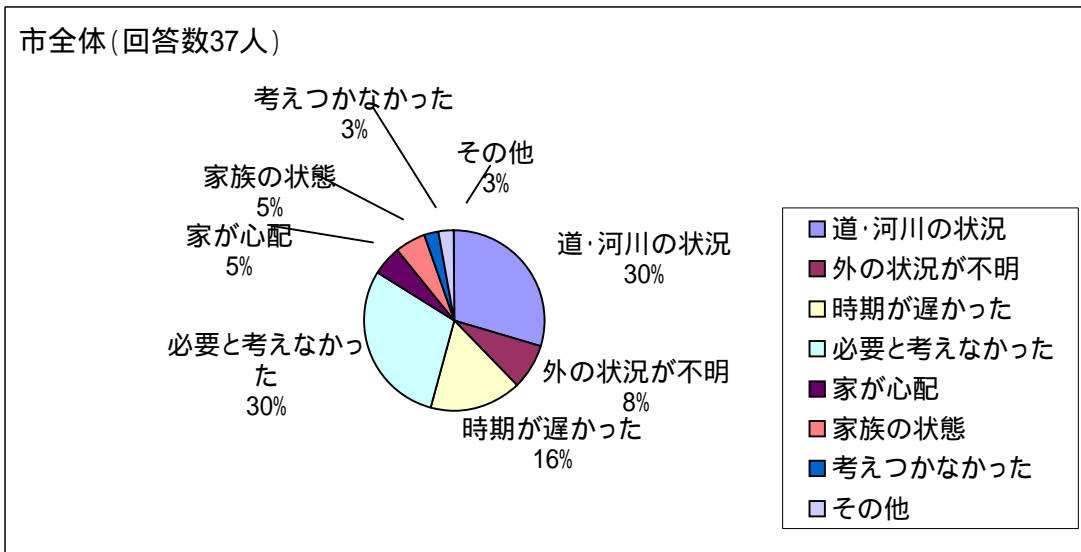
- ・ 市も近所の方も被災者の気持ちがわかっていない。被害が自分に降りかからないとわからない人が多い。

問24. 避難をされなかった方について、その決定に至った理由は何ですか。



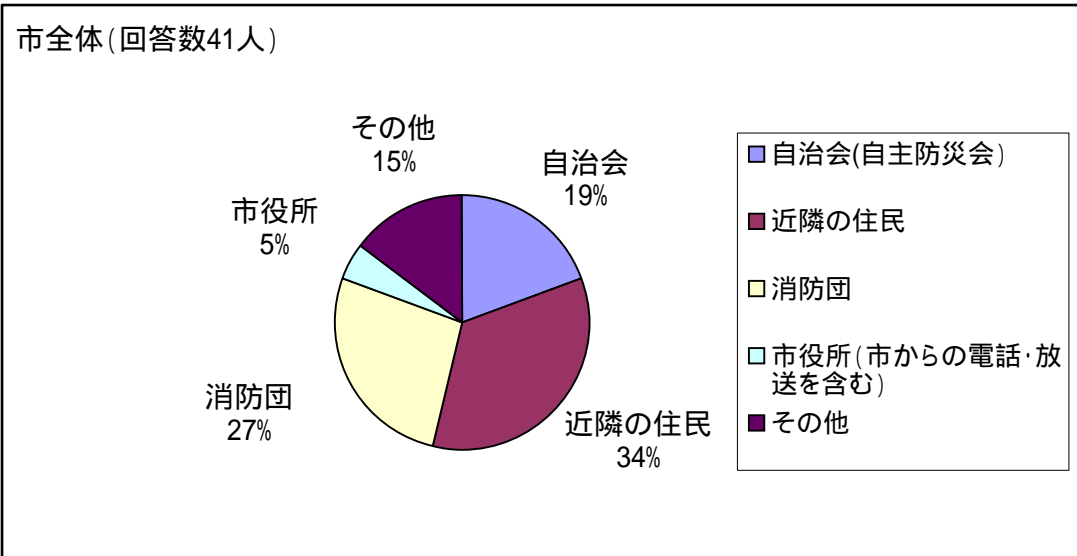
全体として避難しないことを決定された理由として、自己又は家族での決定と回答された方が約8割となった。地域別においても大きな差異はなかった。

問25. 避難をされなかった方について、その決定に至った理由は何ですか。



主な理由として、「道路・河川の状況から時機を逸するなど避難できなかった」との回答が半数となったが、一方で「必要と考えなかった」や「考えつかなかった」と回答する方が1/3に及ぶ結果となった。

問26. 他からの呼びかけで避難されなかった方について、その判断はどこからの情報ですか。

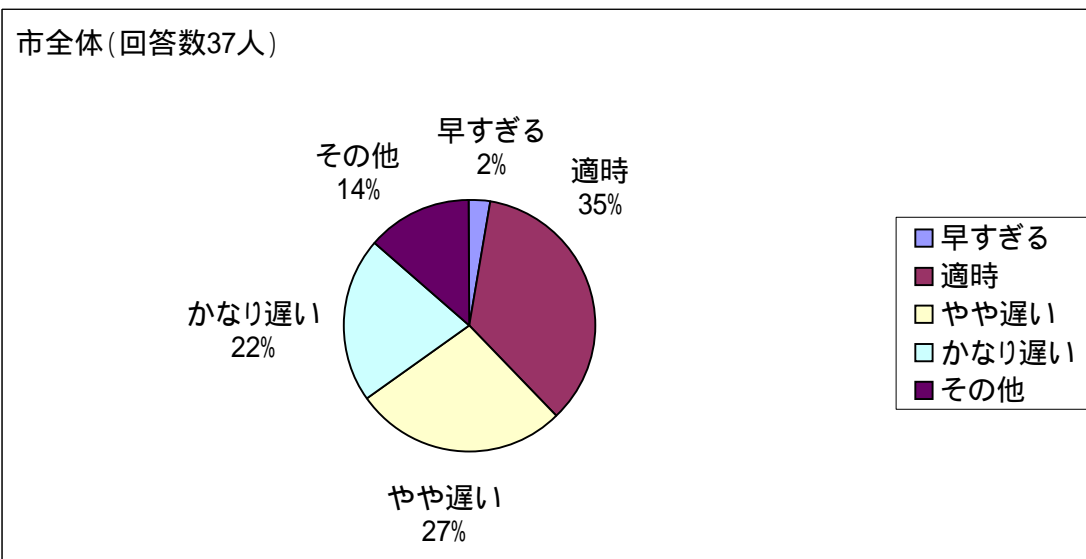


避難しないことを決定した根拠としては、近隣住民からの情報が最も多く、次いで消防団や自治会からの情報となっている。

一方、市役所からの情報により決定された方は少数との結果となった。

「その他」の意見として、警察からの情報に基づいて決定したとの意見があった。

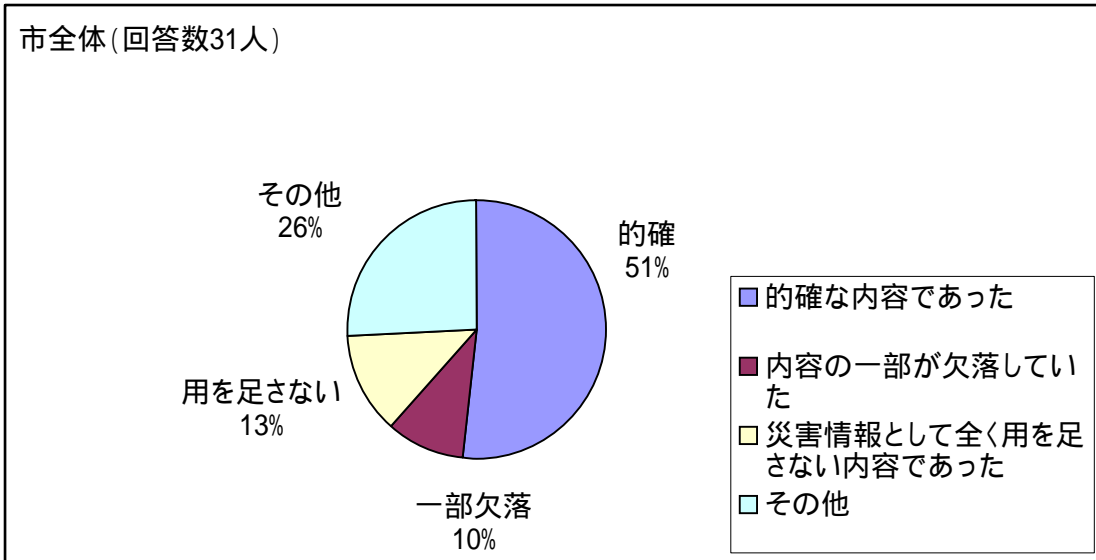
問27. 他からの情報により避難されなかった方について、情報の伝達時間をどのように思われますか。



「その他」の意見として、「非常に遅い」との意見が多くあった。

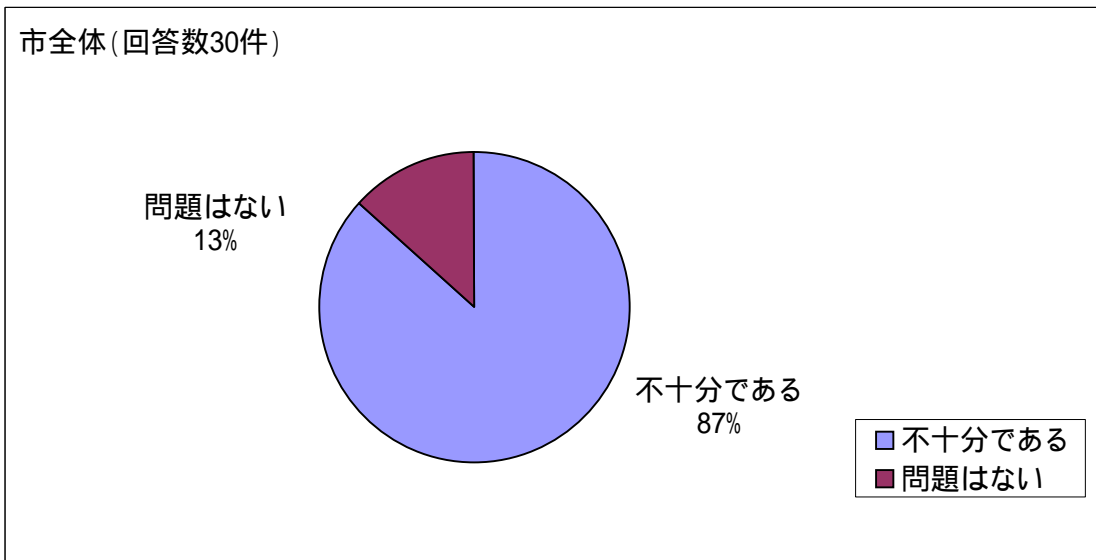
判断の基となった情報が伝わった時間については、「適時」とする回答が過半数となっている一方で、「その他」の非常に遅いを加えると、約4割の方が「遅い」とされている。

問28. 他からの情報により避難されなかった方について、情報の内容についてどのように思われますか



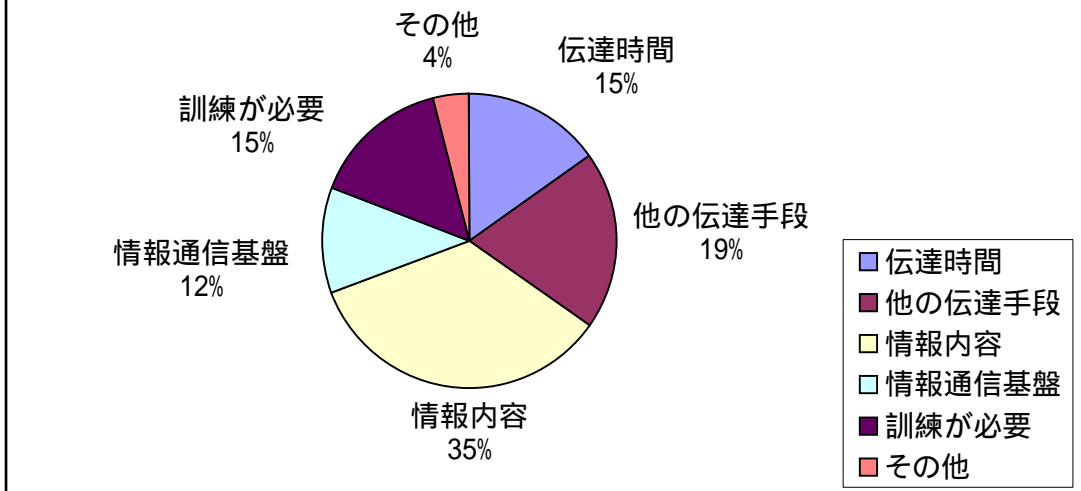
この度の急激な降雨、増水の状況において、市・地域等の対応が不十分な中で、情報内容が的確と回答された方が過半数となったことは、情報を提供する側と受ける側の双方において、その情報内容が合致していたものと同える。しかしながら、「用を足さない」とする回答が1/4となっており、正確な情報の授受が求められる結果ともなった。

問29. 避難をされなかった方に対して、災害時における避難等の情報の伝達時間・情報の内容について、思われたことは。



「問題はない」との回答に対して、「不十分である。課題がある。」旨の回答が大きく上回る結果となった。

情報の伝達時間・内容が不十分である課題がある。(回答数26件)



【主な意見】

伝達時間について

- ・もう少し早く情報の伝達をお願いしたい。
- ・避難指示・勧告はできるだけはやく。
- ・避難状況を聞いたとき既に避難所までの道がなかった。予想以上に増水が早かったと思う。

他の伝達手段の活用

- ・サイレンで伝えてほしい。
- ・告知放送機器はあるが、寝室とは別のところに設置している。緊急の場合は放送以外の伝達方法を考えてほしい。
- ・緊急時の告知放送は、最大音量となるような放送をすべきだ。
- ・消防団にいち早く情報を伝えて、市民が安心して避難できるようにしてほしい。

情報内容について

- ・「ダム放水」の情報で大変不安になった。
- ・正確な「ダム放流」の情報がほしかった。「ピークは何時頃で、水位が何cm上昇する」など。
- ・午後8時には降水量と時間を伝えてほしかった。佐用町には警報が出ていた。
- ・上流部で川が氾濫しているのであれば、下流部にも情報を伝えてほしい。
- ・地域の情報や避難の参考となる情報を伝えてほしい。
- ・自宅の安全度で自己決定・責任が優先。情報は参考で、統一的な避難命令は問題有り。

情報通信基盤について

- ・放送・広報車・自治会連絡・消防団連絡など、複数の伝達方法を活用すべき。
- ・今回、携帯電話(NTTドコモ)が使用できなくなり、大変不安だった。
- ・情報が寸断されたため、自己判断による対応となった。

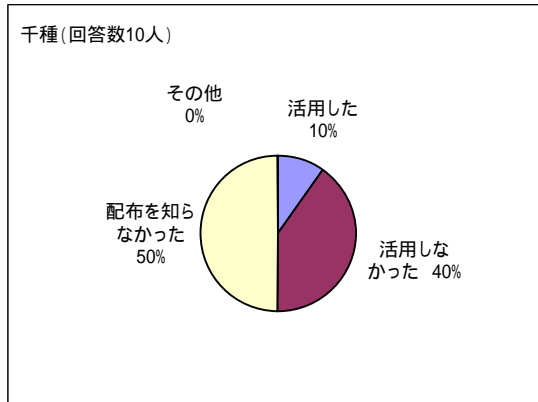
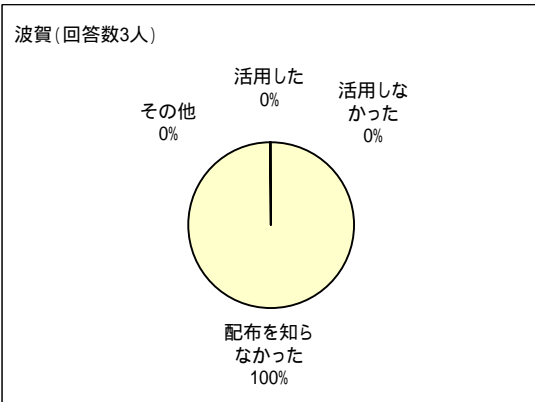
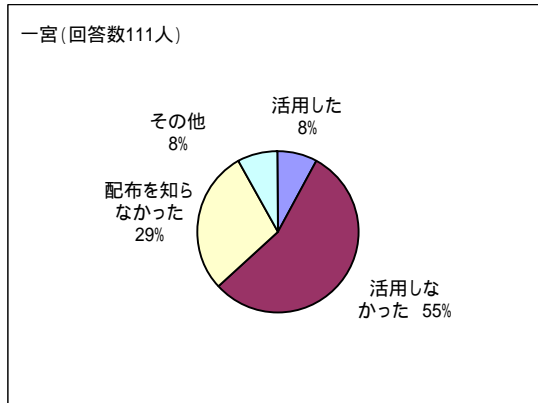
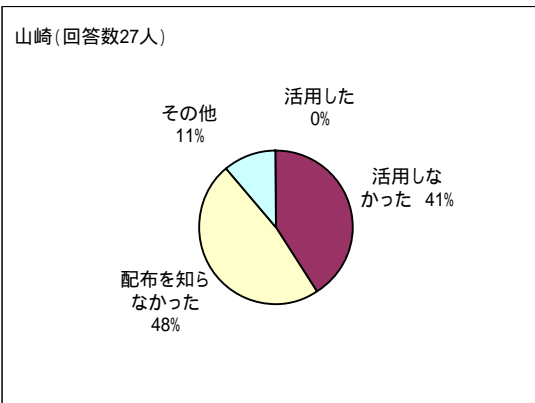
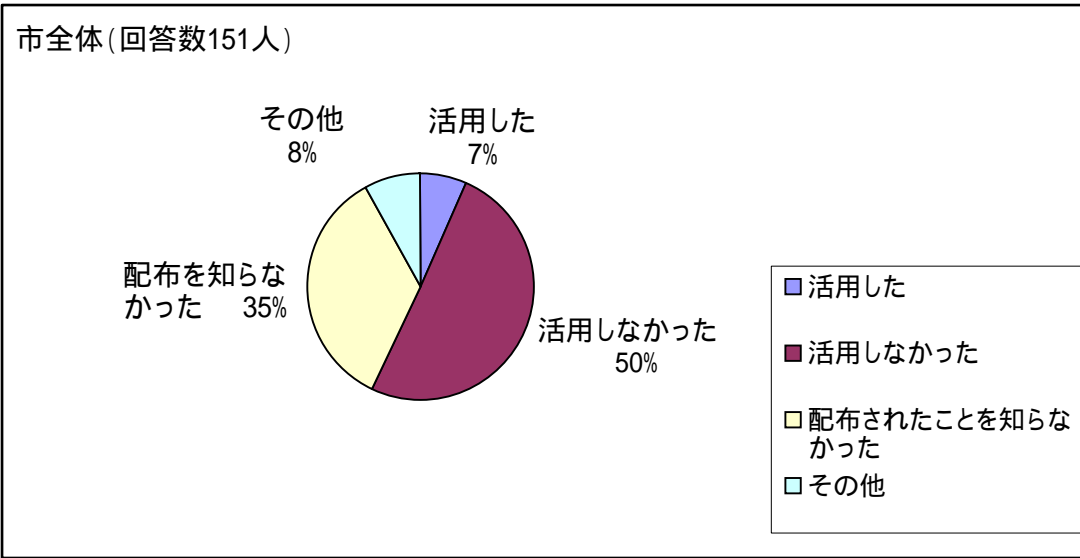
訓練が必要

- ・避難路の安全確認は自分です。普段からの心構えが大切。自動車での避難は長短がある。
- ・平素からの情報の共有と、災害時の情報伝達経路や行動など、徹底と繰り返しが必要。

その他

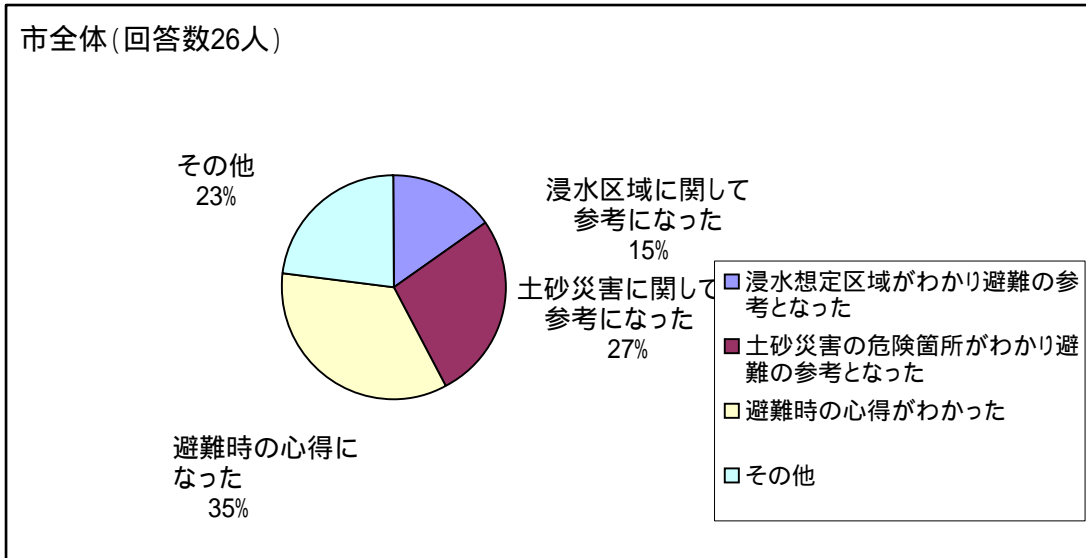
- ・自治会や消防から避難を言われたが、家を離れる気になれなかった。

問30. 市が作成した「洪水ハザードマップ」について、この度の災害で活用されましたか。



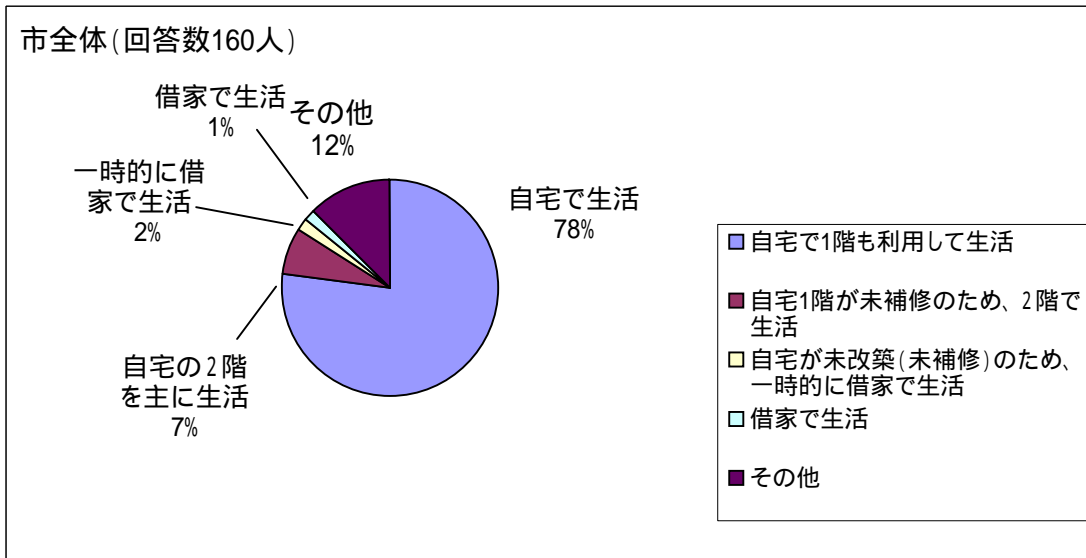
地域によって割合は異なるものの、平成21年4月に配布した「宍粟市洪水マップ」は活用されなかった結果となった。
 また、半数に達する方が「配布されていることを知らなかった。」との回答であり、「忘れていた」との意見もあることから、その活用方法も含め、市民への周知に課題があることが分かる結果となった。

問31. 洪水ハザードマップを活用された方について、何に役立ちましたか。

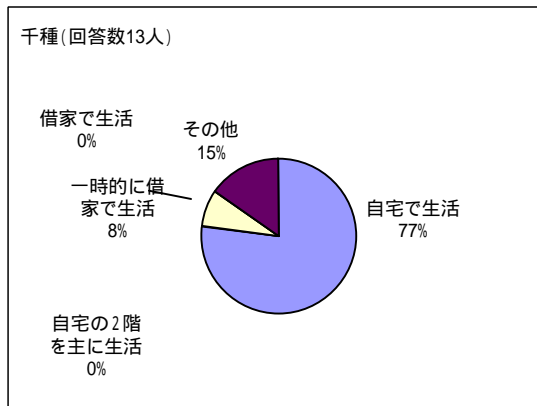
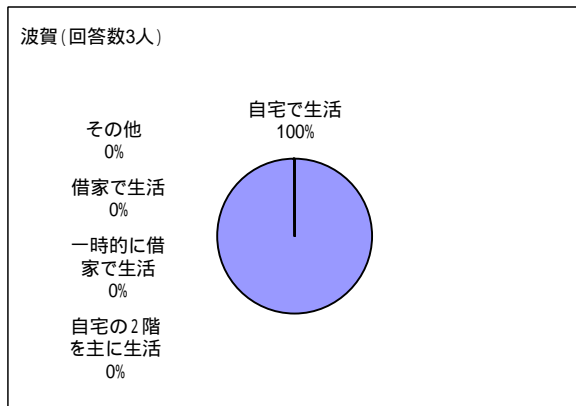
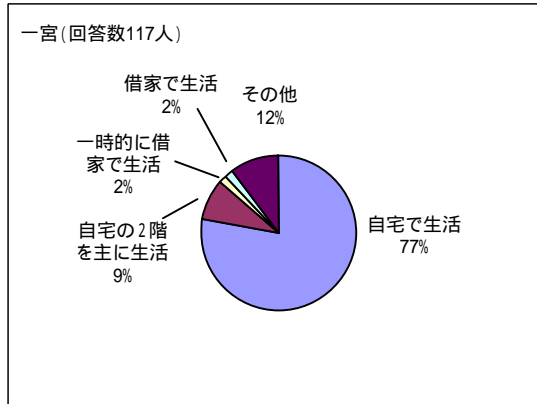
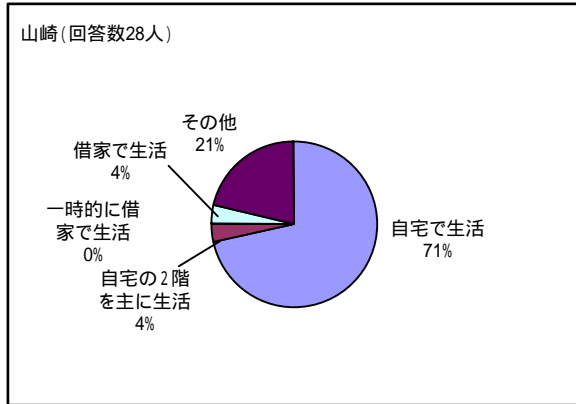


回答に付随して、「避難所が浸水区域内にあることがわかった」との意見があった。

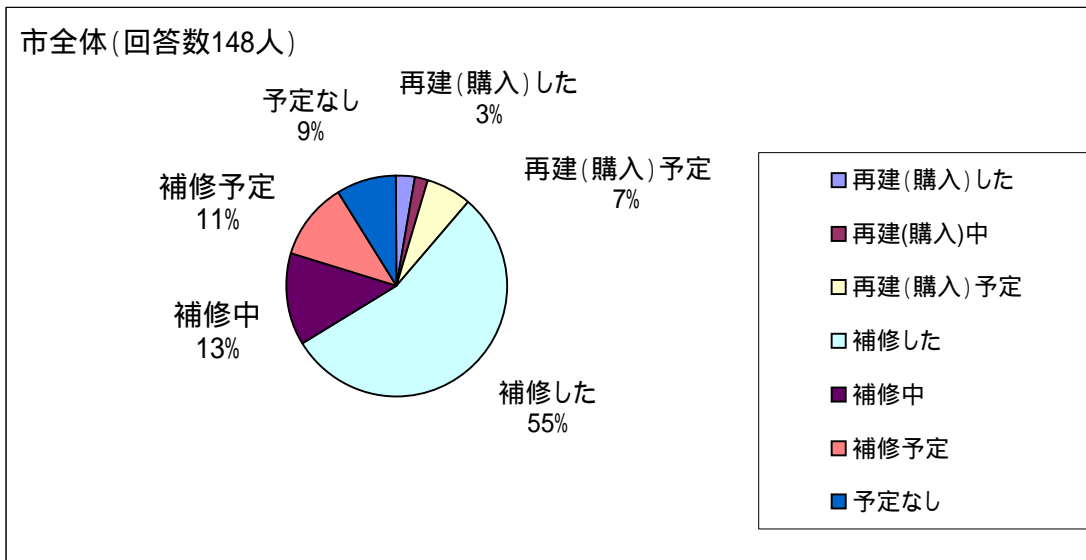
問32. 【復興に関して】現在(10月～11月)の生活の様子をお伺いします。



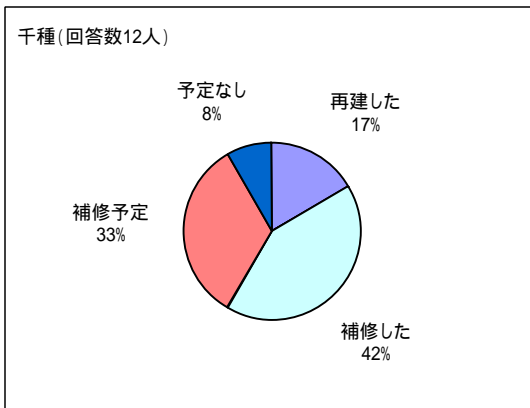
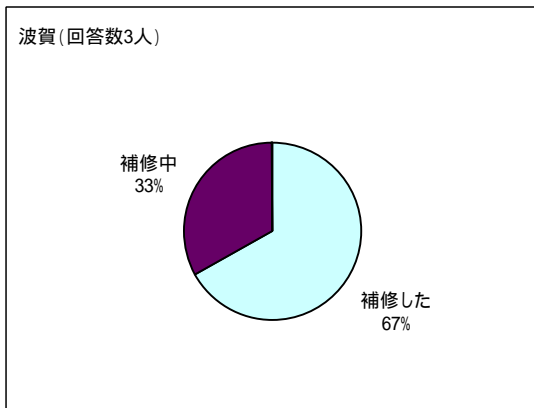
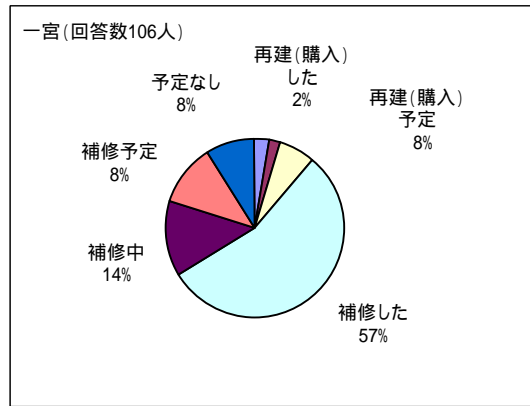
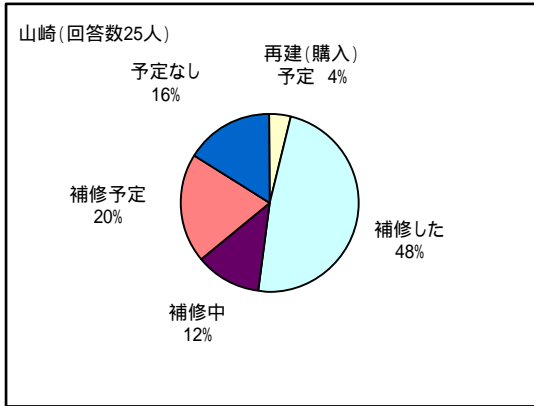
市全体、及び各地域においても3/4の方が自宅での生活をされている実態が把握された。自宅での生活について、「母屋ではなく、離れを主に生活」との意見もあり、住生活の実態において依然として完全な復旧が果たされていないことがわかった。



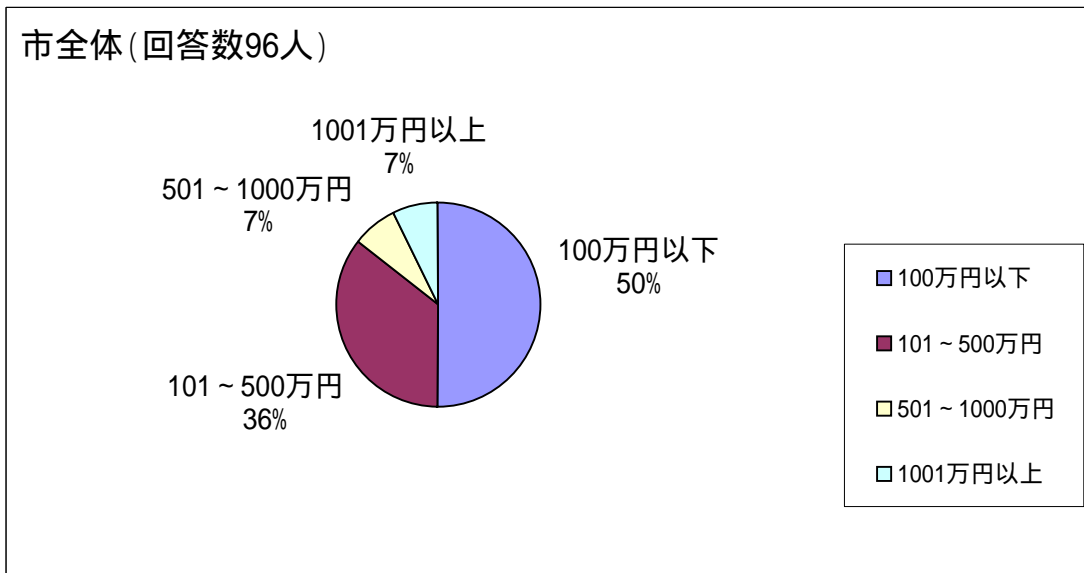
問33. [復興に関して] 被災した住宅が自己所有の方に、住宅の再建又は補修の予定をお伺いします。



アンケート調査時点(11月上旬)においては、市全体並びに地域別に見ても「補修した」との回答が最も多い結果となった。
 しかしながら、「再建予定・補修予定」の回答が1/4あることから、今後の復興については長期的な取り組みとなることが予想される結果ともなった。

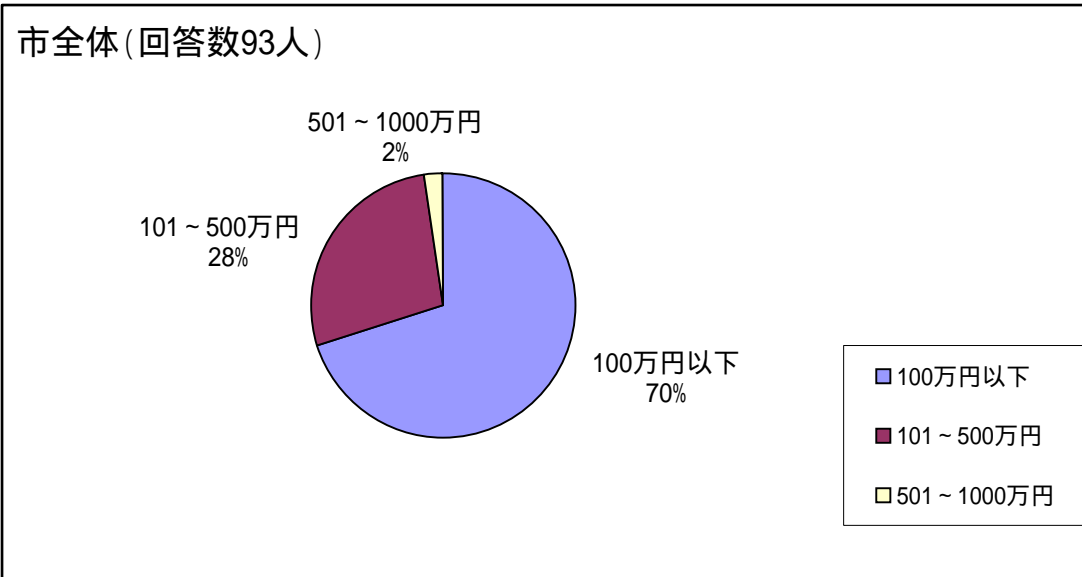


問34. [復興に関して] 再建又は補修のために要した(要する予定)の金額についてお伺いします。



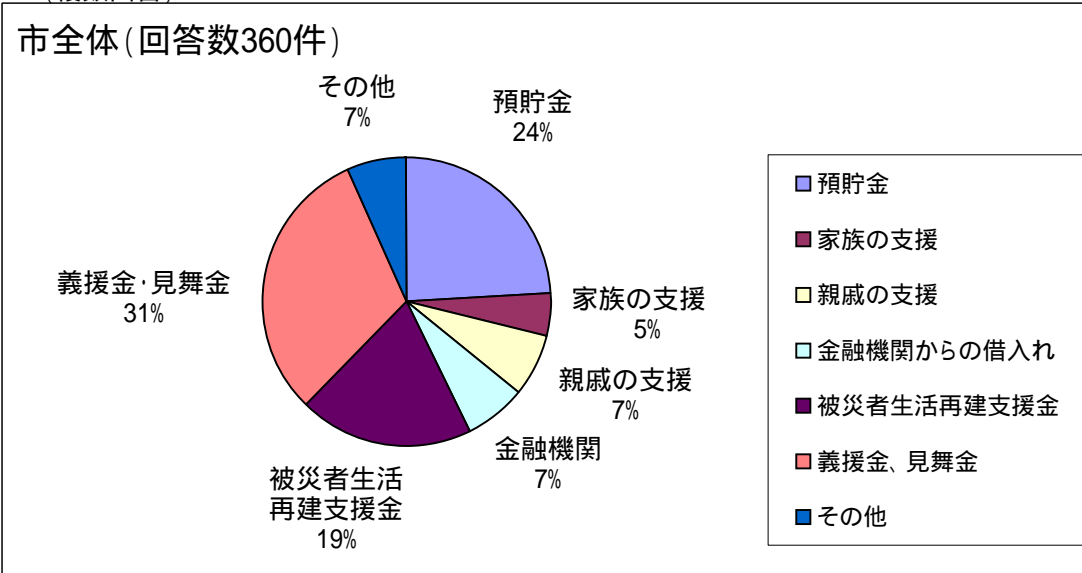
回答いただいた方について、全体の半数が100万円以下の費用となっている。回答の中では、4,000万円以上を要すると回答された方もあり、個人的に災害復興には相当の負担が生じることが分かります。

問35.【復興に関して】生活用品の買い替えに要した(要する予定)の金額についてお伺いします。

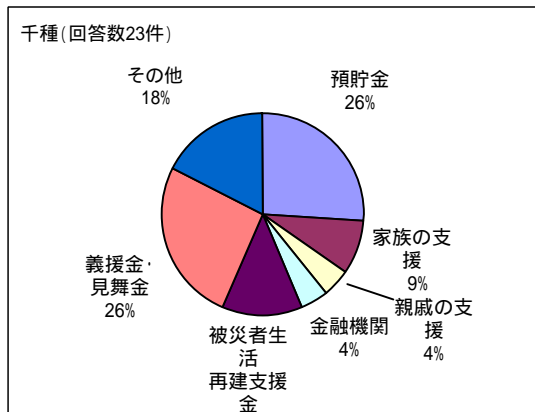
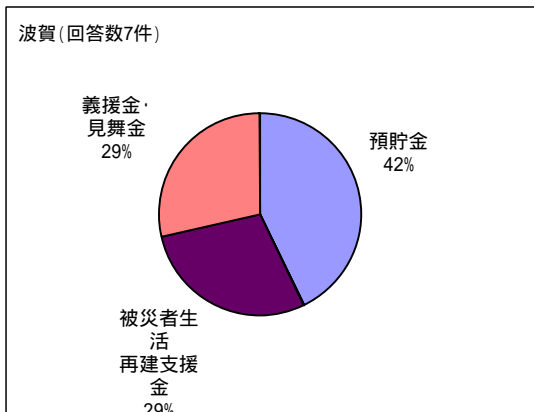
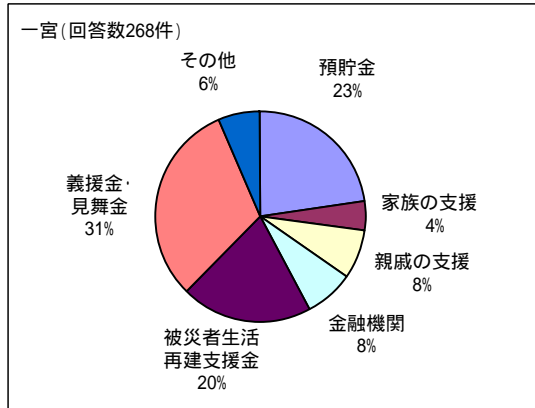
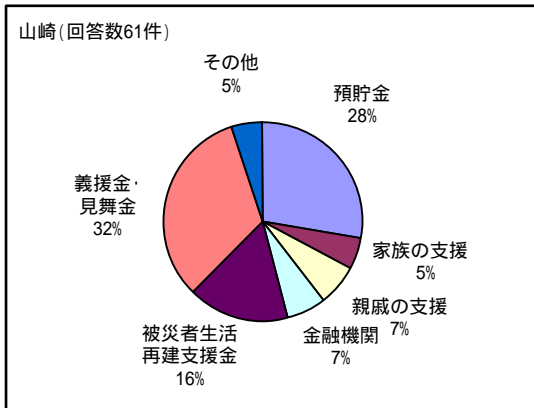


回答いただいた方について、全体の7割が100万円以下の費用となっている。回答の中では、1,000万円程度を要すると回答された方もあり、日用品の買い替えについても、個人的に災害復興には相当の負担が生じることが分かります。

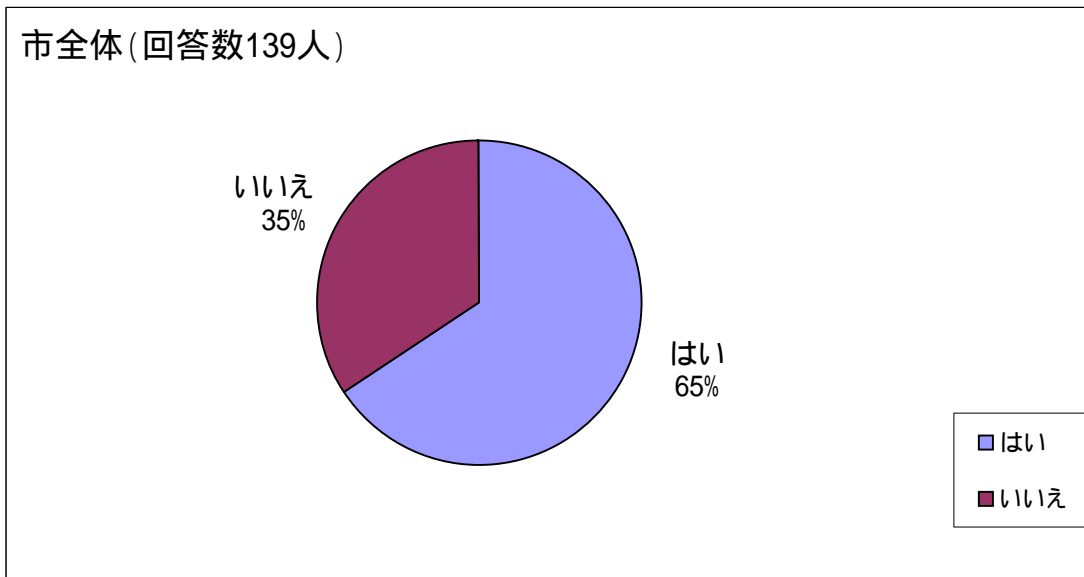
問36.【復興に関して】住宅復興などの復興資金の確保先についてお伺いします。
(複数回答)



住宅の再建・補修、及び日用品の買い替えなどに要する復興資金の確保先として、自己資金の割合が1/4で、制度資金・義援金・見舞金の割合が1/2と最も多くなっていることが分かる。また、「その他」の復興資金として「保険」と回答される方が多く、これらを含めると自己資金の割合は約3割との結果となった。いざというときの復興資金の確保先として、自己資金の確保が大切であると考えられる。



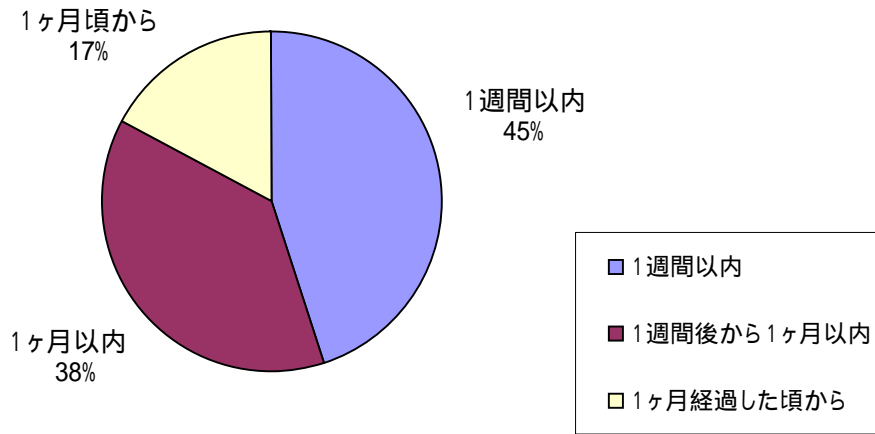
問37. 被災により、家族の中でからだやこころに何らかの変化はありましたか。



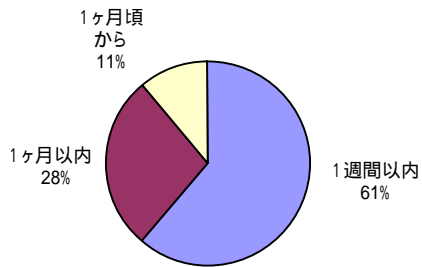
市全体と地域別の回答割合はほぼ同様で、今回の災害により多くの方が、からだやこころに何らかの変化を持たれたことがわかる。

問38. 家族の中でからだやところに、何らかの変化があったのは、いつ頃からですか。

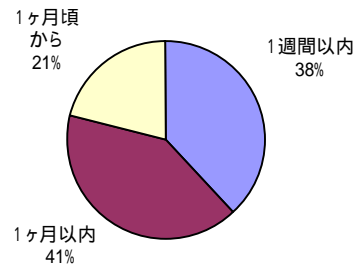
市全体(回答数98人)



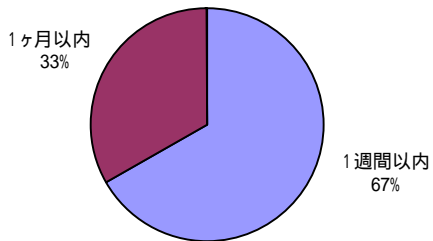
山崎(回答数29人)



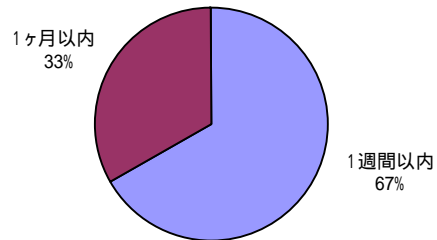
一宮(回答数71人)



波賀(回答数3人)



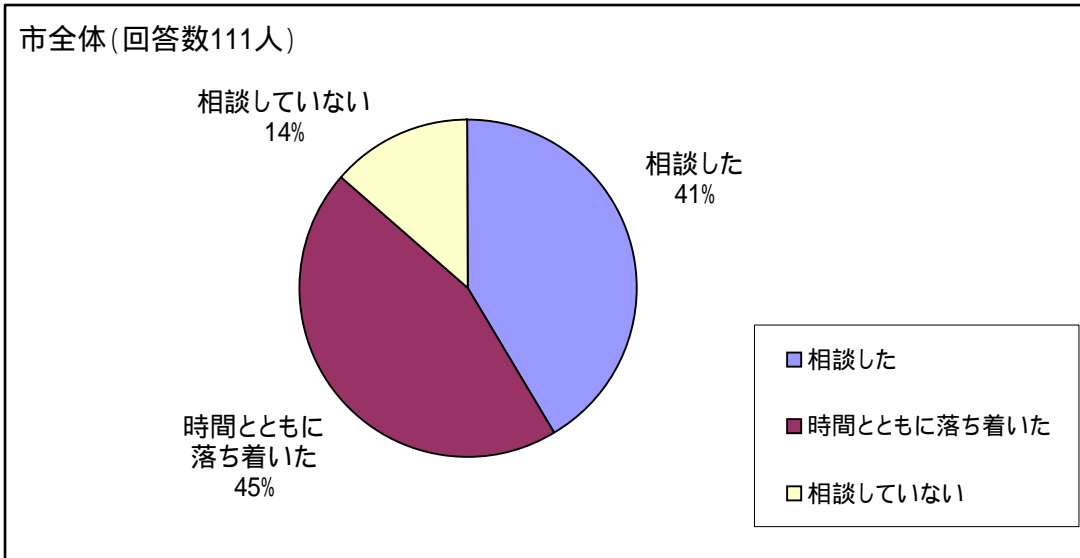
千種(回答数6人)



市全体においては5割の方が「被災から1週間以内に何らかの変化を覚えた」との回答となったが、市内で最も被害の大きかった一宮地域では1週間以内に変化を覚えた方の割合は少なくなり、やや期日を経て変化を覚えられの方の割合が高い結果となった。

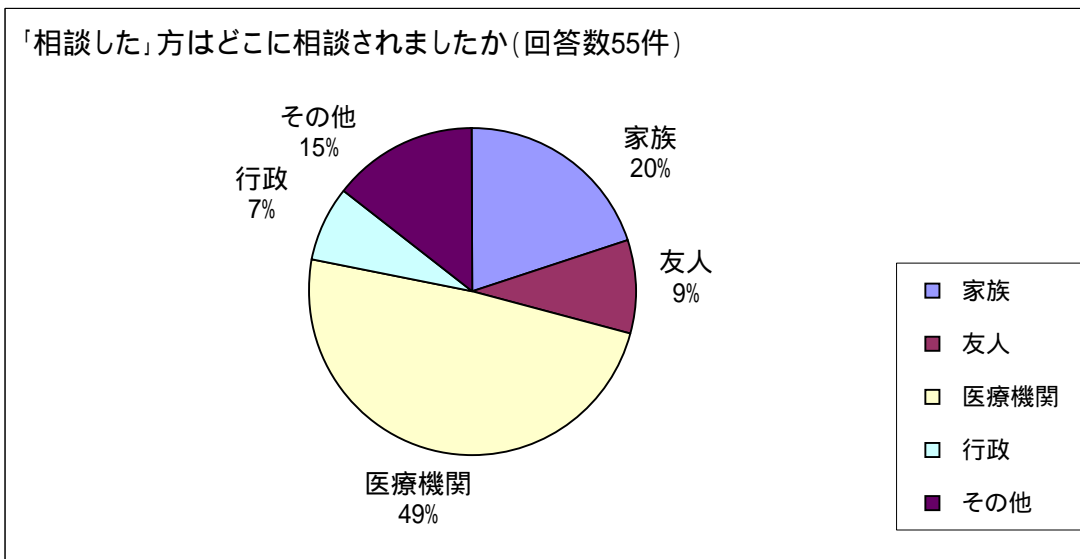
これは、被災後の片付けや復旧・復興に関わる作業等が長期化する中で、こころやからだも緊張した期間が長期化したことがうかがえる。

問38-2. からだやこころに、何らかの変化があったとき、どこかに相談されましたか。



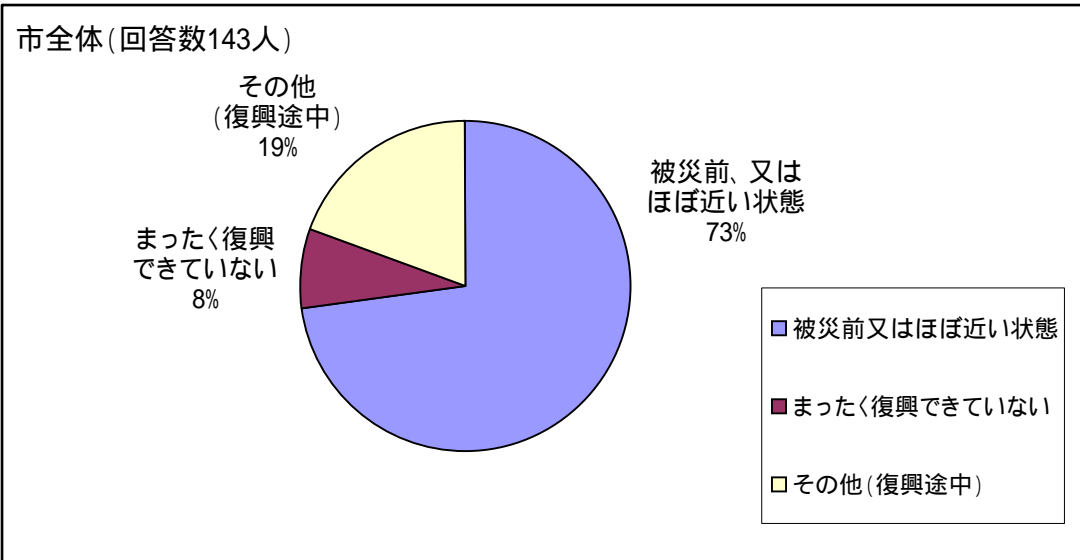
市全体として「相談した」と「時間とともに落ち着いた」がほぼ同割合ながら「時間とともに落ち着いた」と回答される方が多くなったが、被害の最も大きかった一宮地域では、ほぼ同割合ながら「相談した」と回答される方が多い結果となった。

(複数回答)

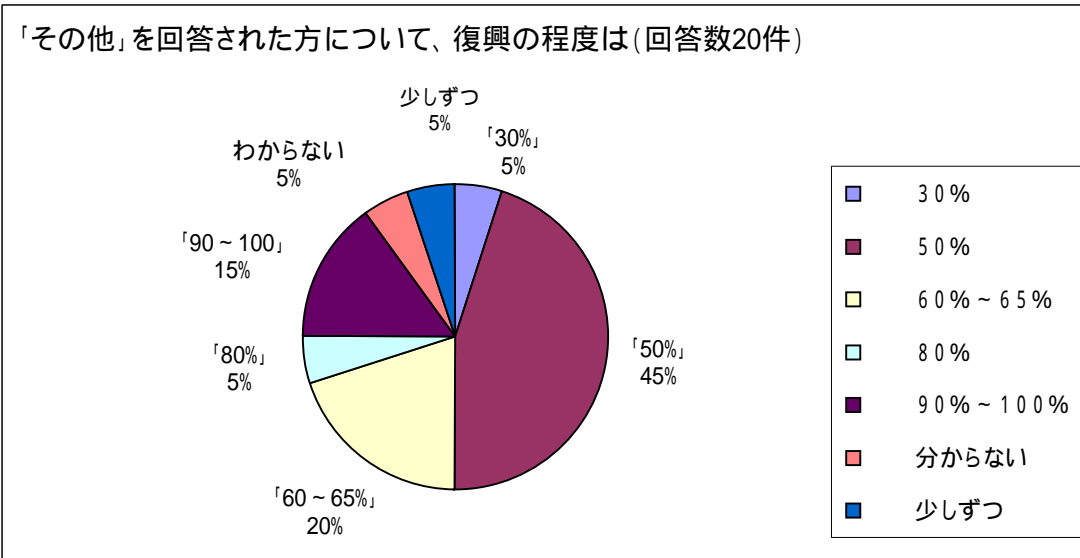


相談相手・相談先として、最も多かったのが「医療機関」との結果となった。「その他」の内訳として、「親戚」や「兄弟」等を回答された方が多く、「家族」や「友人」を加えると4割近くの方が、日頃の交友関係が深い人と相談されたことがうかがえる。

問39. 精神面も含めて、ご家庭の全体的な復興度合いをお伺いします。

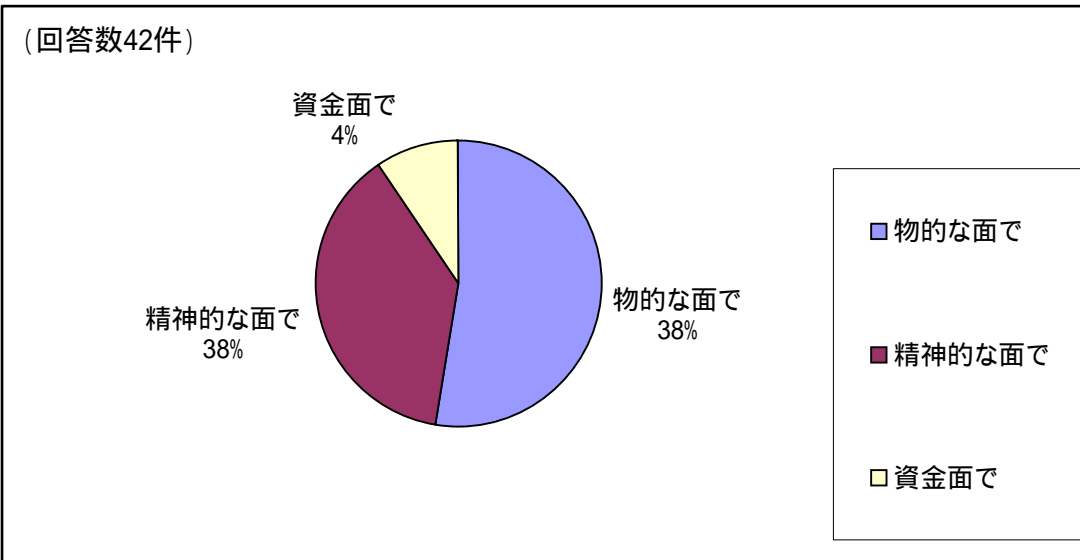


市全体については「被災前、又はその状況にほぼ近い状態」との回答が3/4となった。地域別の復興度合いについては、「被災前、又はその状況にほぼ近い状態」と回答される方の割合が、ほぼ同程度ながら『波賀地域』、『山崎地域』、『千種地域』、『一宮地域』の順で低くなる結果となった。



精神面も含めて、家族の復興の度合いが「途中である」と回答された方について、復興度合いが思うように進んでいないと思われるの方が高い数値となっている。

問40. 精神面も含めて、ご家庭の全体的な復興度合いが、「全く復興できていない」及び「途中で
ある」とされた方について、そのように考えられる理由は何ですか。



【主な意見】

物的な面で

- ・ 住居のことで思いがいっぱいで、農地の復旧が手つかずの状況となっている。
- ・ まだ自宅を再建中であり、仮設の部屋・台所等で不便なことが多々ある。また、仕事にも行かなければならず、建築業者にも気を遣うなど、未だに疲れを引きずっている。
- ・ 復旧工法を検討中である。
- ・ 自宅を再建できる予定が見つからない。
- ・ 自宅が全く補修できない。
- ・ 一人暮らしの中、自営業の仕事の合間に片づけを行っている。
- ・ 少しの雨でも、排水口が詰まっているので心配だ。
- ・ 家の外回りの補修を依頼しているが、まだ補修できていない。
- ・ 見た目は家の補修ができているが、田畑などまだまだ手をつけなければならない状態。
- ・ 作業場・機械類・道具類などが手つかずの状態、修理にどれほど資金が要するのか、買い替えも検討中である。
- ・ 家の方は落ち着いているが、対岸の山崩れが気になる。工場が全て流出したのに、道筋が未だ見えない。
- ・ 全壊した店舗のことを思うと前途多難。
- ・ 仕事道具が、未だ整備できていない。

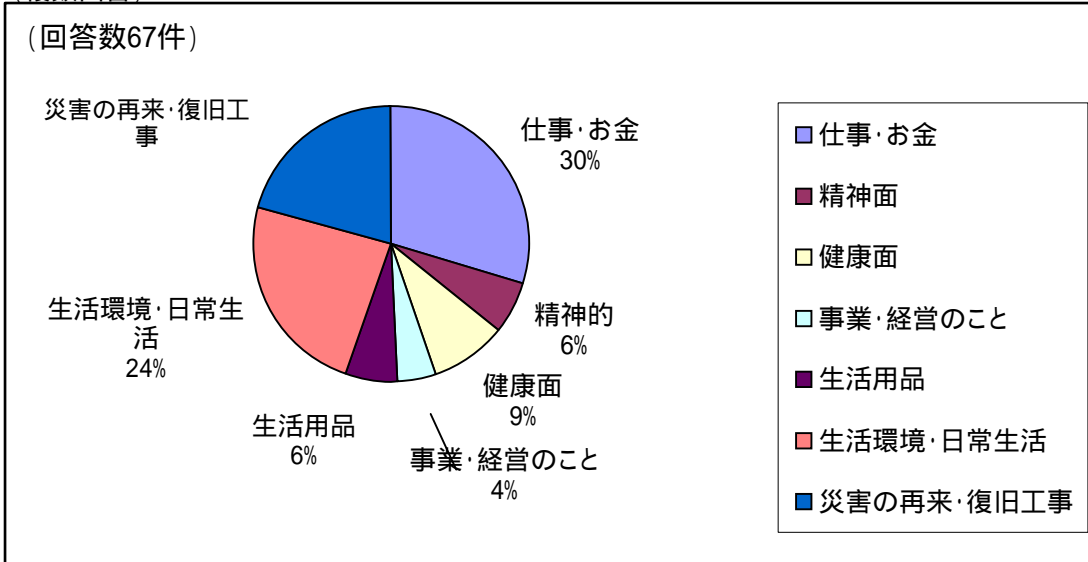
精神的な面で

- ・ 精神的にも肉体的にも力が抜けたような感じで、力が出ない。
- ・ なかなか眠れない。
- ・ 認知症の親をかかえ、近隣には親しい方も無く、人間関係にも心身ともに疲れている。
- ・ 70歳を越すと、気力も体力も無い。
- ・ 災害のショックで寿命を縮めたように思う。
- ・ 住み慣れた地域を離れることに、淋しさを感じる。
- ・ 寒さが増す中、ストレスを感じるようになった。
- ・ 生活が一変して、新しい環境に慣れなく、とまどうことも多い。

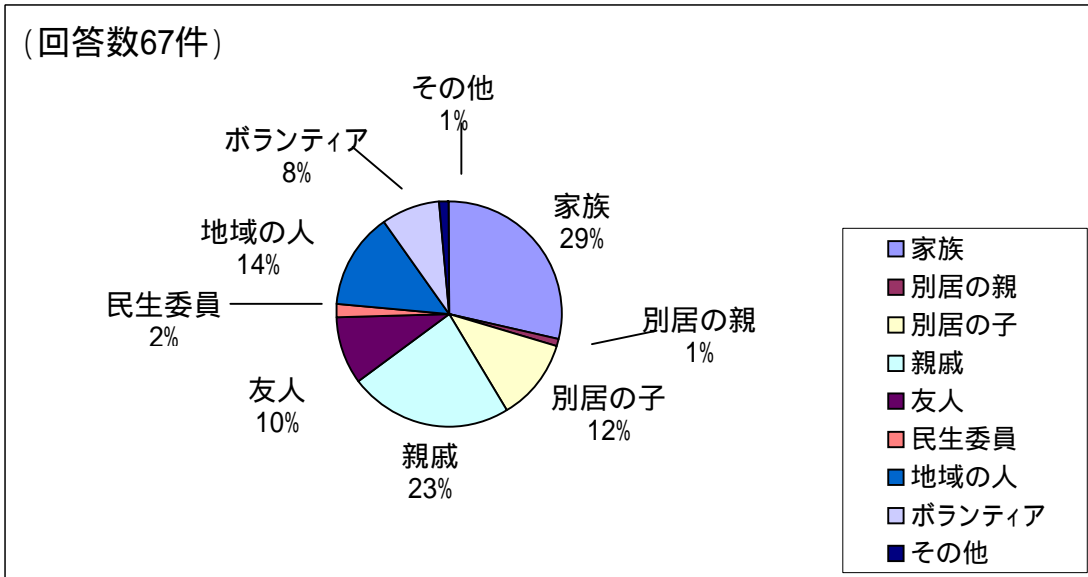
資金面で

- ・ 車の代金の借入の事が決まっていない。
- ・ 金銭的なことも含めた生活の不安。
- ・ 融資の件で復興が進んでいないと感じる。

問41. 現在、何に一番お困りですか。
(複数回答)



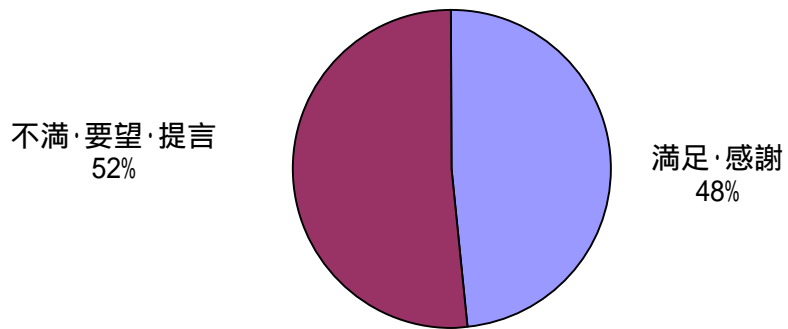
問42. 復興にあたって、誰が支えになっていますか。



復興にあたって、その支えとなる人として「家族」や「親戚」など、「血縁関係が支えになる」と回答された方が、7割近くを占める結果となった。
また、「地域の人」と回答された内訳は、「自治会・消防団と隣保・近所の人」が支えになる」との回答が9割近くとなった。

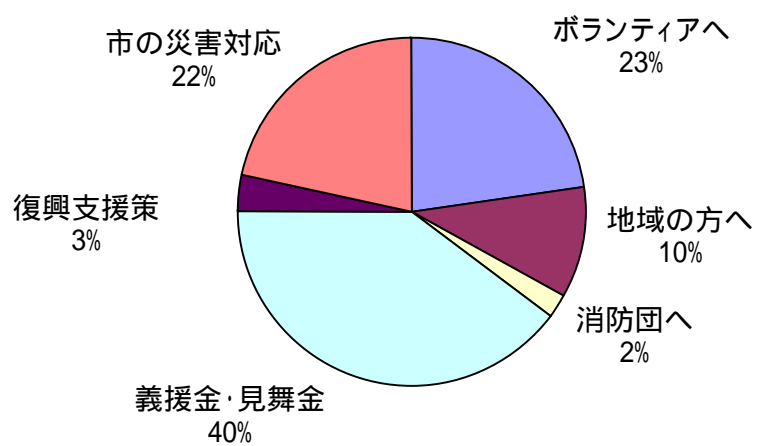
災害への思い、国・県・市が行っている災害対策についてなど、ご意見をお願いします。

(意見数182件)



満足・感謝に関する意見

(意見数88件)



【主な意見】

ボランティアへ

- ・ 災害は知っていても、この度の被害を自分たちが被るとは思いませんでした。人生長生きすれば色々と体験すると思うが頑張る。ボランティア活動の皆さんありがとう。
- ・ ゴミ置き場では他市からのボランティアの人がよく手伝ってくれたので嬉しかった。
- ・ 土砂を取り除いたり、床下の泥を出したりと大変な作業をしていただいた。
- ・ 社会福祉協議会の皆さん、ボランティアの皆さんには大変お世話になりました。
- ・ 多くの人たちの温かい心、温かい言葉に涙が今も出ます。農地も大変なことになっているが、体につけながら少しずつ前に進もうと思う。

地域の方へ

- ・ 近所の繋がりが、より強くなったような気がする。
- ・ 地域の自治会、友人に支えられ、今振り返っても胸にあついものが込み上げてくる。
- ・ 自治会などによる指示に感謝している。
- ・ 親戚・近所の方が来てくださり、思い置・家具類を運んでいただいた。
- ・ 突然のことでショックだったが、地域のご協力や励ましで復興しました。
- ・ 3世代それぞれの関係、地域、団体、グループなどから、細かい配慮など、皆さんの善意をありがたく思う。

消防団へ

- ・ 消防団の連日の作業ご苦労様でした。
- ・ 地元消防団の人たちが毎日頑張ってくれたことに頭がさがる。

義援金・見舞金について

- ・ 県や市からの見舞金・支援金がありがたかった。
- ・ 生活の再建どころか食にも困っていたが義援金等で食料を、県・市の生活支援金で生活上の失った物を買換えることができた。
- ・ 義援金・見舞金により現在の生活ができるようになった。
- ・ 義援金・見舞金を家の修理に使わせていただく。
- ・ 見舞金・義援金は助かる。
- ・ 災害義援金を寄せていただいた方、ありがとう。
- ・ 義援金・見舞金でやっと生活ができるようになったことは、一生忘れない。

復興支援策について

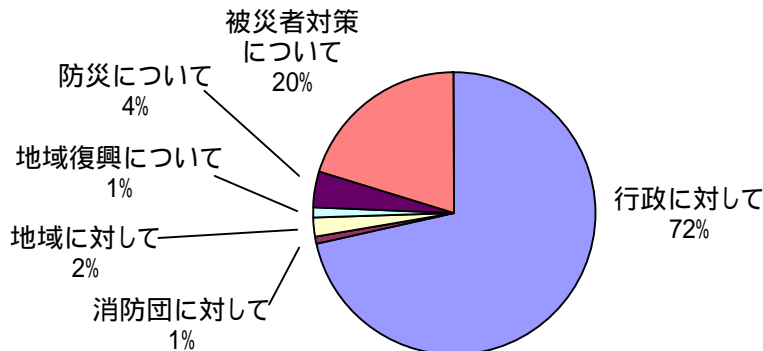
- ・ 国・県・市が行っている復興支援にありがたく思う。
- ・ 国・県・市からの支援策に感謝する。

市の災害対応について

- ・ 市民局・市役所の職員は、よくやってくれた。
- ・ 役所の方が親切にしてくれた。大変嬉しい。
- ・ 行政には色々お手助けしてもらった。一宮町も素晴らしいところだと再認識した。
- ・ 一宮市民局の皆さんに大変お世話になった。感謝している。
- ・ 市民局や多くの人々の協力で一応の復旧は終わった。
- ・ 給水の手配、被災の調査など素早い対応と励ましの訪問、物心両面で大きな支えとなった。
- ・ 市の励ましの言葉はありがたい。
- ・ 災害後の色々な手続きなど、丁寧に対応してもらった。

不満・要望・提言に関する意見

意見数(94件)



【主な意見】

消防団に対して

- ・ 消防団は火災の時だけではないはず。団員の家の手伝いにもっ先に駆けつけていた。

地域に対して

- ・ 隣を大切に。毎日の交流が大切。
- ・ 各個人も行政に頼るばかりではなく、自分の安全は自分で守る心構えが必要。

地域復興について

- ・ 美しい景観だった「福知渓谷・福知渓谷休養センター」が早く再開することを期待する。

防災について

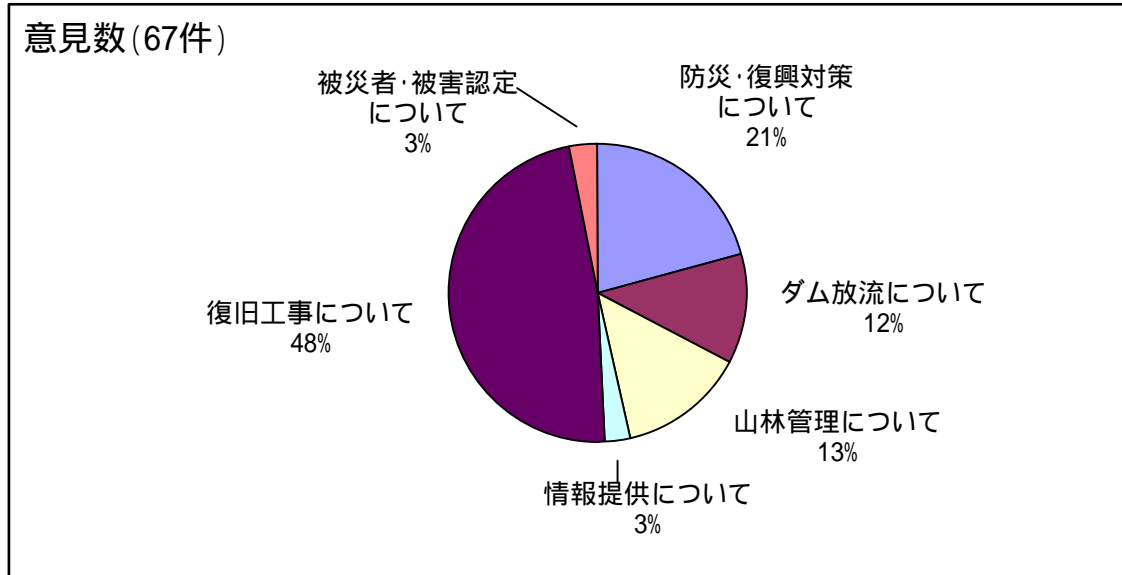
- ・ 防災について小さな知恵を出し合うことが必要。
- ・ ありきたりの訓練ではなく、本気の訓練を実施するべき。
- ・ 早めの避難所開設を願う。
- ・ 防災意識の高めるため、8月9日を「災害に備える日」として、市として何か取り組むというのも方法の一つ。

被災者対策について

- ・ 義援金の使い方でに指図するな。
- ・ 独居老人が増加する中、他地区による見守り活動などの対応を検討してほしい。
- ・ 災害支援策が、はっきりと早く分かると安心だった。
- ・ 大きく被災した世帯への支援を他の工事を中止しても行うべき。
- ・ 突発的な災害に対して、対処しにくい。もっと対応の仕方を柔軟にしてほしい。
- ・ 農機具が全て流され、困っている。
- ・ 無利子の借入が難しい。
- ・ 仮設住宅希望者を集めての説明会を開催してほしい。
- ・ 「被災者が復興を手伝わなくてもよい。」と言われた。精神的苦痛が大きかった。
- ・ 色々ご支援をいただきありがたい反面、何か重荷を背負っていきような気もする。
- ・ 風雨がくるととても不安だ。
- ・ 国・県・市とも、店舗に対する支援がないのは納得いかない。
- ・ 子ども名義の部屋が隣にあり被災したが、子どもには何ももらえないのか。他地域の罹災者の話を聞くとすごく待遇が良い様だが納得いかない。
- ・ 一人暮らし世帯と多人数世帯との対応に不公平な思いがする。
- ・ 排水管の詰まりの土の撤去は市の規約に載っていないと職員が帰った。何とかしてほしい。
- ・ 「エコキュートは対策外」と言われ、仕方なく自費購入した。灯油ボイラーは全額補償されているのに納得がいけない。

- ・「フェニックス共済」に加入しているが、半壊以上しか適用されない。補修金額の一部でも補償してほしい。
- ・見舞金・義援金は助かるが、田舎のため建物が大きく、次から次へと整備が出てくる。

行政に対する不満・要望・提言に関する意見



【主な意見】

防災復興対策について

- ・元通りにする復旧はできているが、二次災害に対する対策は見られない。
- ・復興が遅い。
- ・国道沿いの道路や河川は早く復興するが、県道などは遅くなり、瓦礫もそのままだ。
- ・三方川の護岸の一日も早い復旧を。
- ・川の工事が十分でないで、雨が降るたびに不安だ。
- ・国道は市の管理外と言われる。その通りだが、地域の町として情けない。
- ・同じところが2度・3度と決壊するようでは税金の無駄遣いだ。河床の整備も願う。
- ・繁盛地区・福知地区は手つかずの状態だ。
- ・市役所より桜の木を伐ると言われたが、石垣も傷み崩れたら危ないので伐らないように願う。

ダムの放流について

- ・大雨の時のダムの放流は考えてほしい。
- ・「ダムの放流は、的確だった」との県の報告をそのまま受け入れている。市からもっと疑問をぶつけるべきだ。
- ・ダムの放流で災害が起きたのではないか。
- ・ダムの放流はもっと早い時期から行ってほしい。カヌーのためだけではない。
- ・ダム放流の真相を知りたい。
- ・ダムの放水は事実であり、人災である。

山林管理について

- ・森林の手入れをしないと、また谷川が溢れる。山について行政の応援がほしい。
- ・山の保水力が非常に少なくなっている。以前は2日も経てば水が澄んでいたが、今は濁りが10日経っても無くならない。
- ・川への流木・立木等の流れ込みを防止すること。
- ・杉の流木が多い。
- ・間伐材の対策にあたってほしい。
- ・人工林の手入れ改善と、自然林の植林。
- ・谷川のたくさんの倒木を除去してほしい。
- ・鹿柵が風倒木や石をせき止めたのが、家に水が押し寄せてきた要因だ。

情報提供について

- ・被災した家では告知放送が聞けないのに、「放送連絡した」と言われても連絡が入らない。考えてほしい。
- ・水害の前にサイレンを鳴らしてほしい。これで誰もが外を見るのではないかな。

復旧工事について

- ・安積橋以北の堤防を早期に実現してほしい。
 - ・被害の大きかった地域について、堤防や川を深くするなどの対策を。
 - ・住民の意見を聞いて、安心して住めるまちにしてほしい。
 - ・川沿いに堤防を作ってほしい。
 - ・単なる復旧ではなく、再発防止対策を希望する。
 - ・川幅を広くしてほしい。
 - ・「改良」も考えた復旧を。
 - ・早く揖保川の堆積土砂を除去してほしい。
 - ・田井地区の水害は揖保川の堤防が決壊したことが原因であり、しっかりした堤防を作ってほしい。
 - ・戌ヶ谷の谷川には、1箇所ではなく10箇所ぐらいの砂防ダムが必要だ。
 - ・黒原、草木の出合、大谷の出合、上岸田の出合、北中出合、福中出合、福知出合、楽里出合、嵯峨山、曲里の出合、ながさわの出合、三津、五十波の河川土砂の撤去。
-
- ・本堤防の工事再着手は予定が立つのか。
 - ・曲里橋近辺、西安積橋以南、閩賀河原などの土砂撤去。
 - ・「谷川」について、流れを変えるか考えてほしい。

被災者・被害認定について

- ・被災者への定義が曖昧だ。
- ・地域で一番ひどい被害だったが、我が家は「大規模半壊」で、我が家よりましな家が「全壊」の判定は納得いかない。